



Title	台湾における職業階層と宗教性
Author(s)	寺沢, 重法
Citation	藤女子大学人間生活学部紀要, 53, 9-34
Issue Date	2016-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/61365
Type	journal article
File Information	terazawa2016.pdf



台湾における職業階層と宗教性

寺 沢 重 法

北海道大学大学院文学研究科

台湾における職業階層と宗教性

寺 沢 重 法

Occupational Statuses and Religiosity in Taiwan

Shigenori TERAZAWA

Abstract

The purpose of this study is to examine: 1) which religiosities are affected by occupational status; and whether the effects of occupational status on religiosity are stronger than those of ethnicity in contemporary Taiwan. The data come from 2009 Taiwan Social Change Survey and multiple regression analyses are used. I find that: 1) indigenous belief such as belief in ancestral worship and belief in karma are relatively strongly affected by respondent's occupational status; 2) female with higher occupational status tend not to be concerned with indigenous belief or tend to support the principle of separation of government and religion; 3) as for male, the relationship between occupational status and religiosity are not clear; 4) male with lower occupational statuses tend to be more familiar with indigenous belief; and 5) the effects of ethnicity on religiosity are lower than those of occupational status. The findings from this study imply that ethnicity is not necessarily an important determinant of religiosity in contemporary Taiwan. We need to further examine the relationships between occupational status and religiosity in future research.

1. 問題の所在

1.1 多元・多層化する台湾社会における社会意識形成要因

社会意識に違いを生じさせているのは、人々の置かれた社会的な位置と人生における経験である。社会学では、人々の社会意識に影響を与える要因のなかで、特に学歴や職業や収入などの社会階層要因に焦点を当ててきた (吉川 2011)。その中で特に焦点が当てられてきたのは職業的地位、職業階層であり、階層意識研究 (吉川 1998) や「職業とパーソナリティ」研究 (Kohn et. al. 2012) など、両者の関係を論じる分野が形成されている (吉川 2008、2011、2014)。

台湾において、社会意識の規定要因として階層と並んで注目されてきたのはエスニシティー (以

下、族群) である。戦後台湾では外省人が支配者層、閩南系・客家系の両本省人および原住民が被支配者層として形成され、族群による社会層の分断が比較的顕著だった。族群の違いは戦後台湾において人々の暮らしの主要な部分を占め、たとえば政治意識やナショナルアイデンティティーなど、人々の社会意識の違いも族群の影響を受けるものとみなされてきた。

だが、近年の計量研究においては、族群は必ずしも台湾における社会意識を差異化する要因にはなっていないことを示唆する知見が報告されている。たとえば政治意識などについては確かに本省人と外省人の違いが比較的明瞭に見られるものの、一方で族群間の通婚に対する態度のような日常生活に関する意識は族群差が明確でない (章・伊 2004)。「本省人は親日的だが外省人は反日的であ

所属:

北海道大学大学院文学研究科

Graduate School of Letters, Hokkaido University

る」という二項対立もしばしば取り上げられる。だが、日本統治時代に対する評価についても若い世代ほど族群の影響力が弱い傾向にある（寺沢 2015b）。族群の違いが社会意識の違いを明確に差異化しないという傾向は、沼崎（2014）の指摘する台湾社会の多元化・多層化によるものと推察される。すなわち経済成長、民主化などに伴って族群による社会の分断が曖昧となる一方、学歴、地域、家族構成、年齢、性別などの多元的な要因によって人々の社会的地位や社会意識が形成されるようになる。したがって、現代の台湾社会における社会意識の規定要因を解明しようとする場合、幅広い社会意識を対象に、社会意識に対する社会意識の規定力を見定めるとともに、族群に変わってより強く社会意識を説明する規定要因も探る必要があるといえよう。

そうしたなかで、上述した社会階層は、台湾における社会意識の規定要因として取り上げるべきものであり、特に職業に着目する必要がある。現代産業社会において職業生活は、生活の糧の獲得基盤、社会的上昇の手段、自己実現の基盤として日常生活の多くに深く関わっている。

たとえば、吉川（1998）は、現代産業社会において職業が社会階層の顕在的結節点であることについて以下のように指摘する。

こうした命題において階級・階層として言及されている概念を、あえてひとつの階層指標に統合するとすれば、それは学歴階層でも収入階層でも、「生産関係」でもなく、間違いなく職業階層（＝職業的地位）となるだろう。
〈中略〉現代産業社会における人々の生活環境においては、職業生活は最も主要な局面である。とりわけ階層研究の旧来からの分析対象であった成人有職男性の場合、生活の糧を獲得する基盤となり、社会的上昇の手段となり、自己実現を可能にする職業生活に、日常のほとんどの部分を傾注していることは自明とされてきた。職業階層は、この職業生活における社会関係や生活機会を、もっとも直接的に代表している指標である。同時にその背後にある出身階層、学歴、収入などの他のどんな社会的属性よりも、はるかに顕在的に社会における諸個人のおかれた位置づけを表している。（吉川 1998：32-33）

また Kohn らによる「職業とパーソナリティ」研究（Kohn and Schooler 1983; Kohn et. al. 2012）でも、職業に付帯する生活条件が現代人のパーソナリティ形成に効力をもつことが実証的に示されている。たとえば、低い職業的地位では、職業条件およびパーソナリティに同調的な傾向がみられる一方、高い職業的地位では、職業条件およびパーソナリティにセルフ・ディレクション（自己の判断や意思決定の尊重）の傾向が強い。この点について Kohn（1981）では以下のように述べられている。

社会階級が人間の行動にとって重要なものであるのは、社会階級が社会的現実に対する人々のものの見方に深く関わる、体系的に差異化された生活条件を内包しているからである。高い階級的位置にあるということは、意思決定や行為が自己の裁量内にあるということであり、低い階級的位置にあるということは、個人のコントロール可能な領域を超えた、理解することのできない強制力に従わざるをえないということである。（Kohn 1981: 268）
（吉川 1998：39-40）の訳を引用。

台湾においても台中関係に関する態度（Chang 2014）、若い世代における日本の植民地時代への評価（寺沢 2015b）に関して、職業との相対的に明確な関連が指摘されている。こうしてみると現代台湾社会における社会意識の規定要因の分析の際には、職業に着目する必要があることが想定される。

1.2 台湾における宗教性の重要さ

本報告では様々な社会意識のなかで、人々の宗教行動や宗教意識（以下、宗教性）に着目する。1987の戒厳令解除以降の台湾では伝統宗教実践を行う人の増加、仏教教団の躍進、スピリチュアリティの流行などが見られる（瞿 2006）。台湾における宗教性の高さは、2008年に実施された日本・韓国・中国・台湾の4社会比較調査（EASS-2008）の結果からも確認される。たとえば引越などの特別な日に日柄などを気にするかどうか、子供の姓名判断をしたことがあるかどうかについての設問では、気にする、あるいはしたことがあると回答する傾向は台湾が最も高い（図1と図2）。

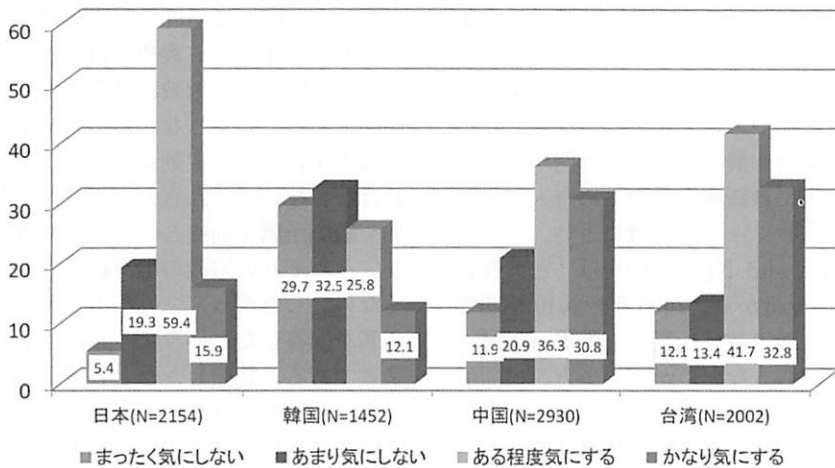


図1 引越などの際に日柄を気にするか？ (%)

(出典) 日本版総合的社会調査研究拠点編 (2010:110) より作成。

(注) DK および NA は省略。

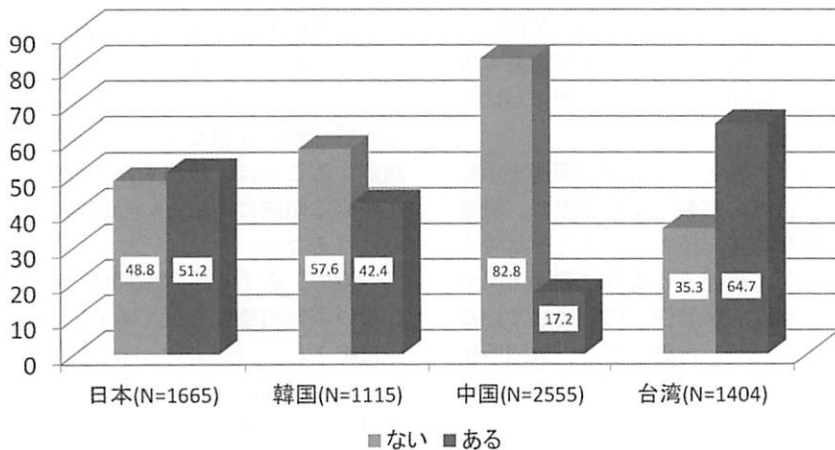


図2 子供の姓名判断をした経験 (%)

(出典) 日本版総合的社会調査研究拠点編 (2010:110) より作成。

(注) DK および NA は省略。

これら東アジア4社会における台湾の宗教性の相対的高さを示唆する結果である。

さらに、宗教性が、精神的健康や政治意識、利他主義、教育アスピレーションなど様々な領域の社会意識と関連することも指摘されている(寺沢2015a)。こうしたことから台湾においては宗教性が重要な社会意識であることがうかがわれる。

1.3 台湾における宗教性と族群、階層

また台湾では宗教性は族群との関連が明確だったものの、近年はその希薄化と階層要因の明確化が指摘されている。外省人よりも閩南系本省人は、

祖先崇拜観念が高く(陳2012)、外省人よりも本省人の方が靈魂観念や気功観念などが強い傾向にあることが指摘されている(郭2012)。だが一方で外省人と本省人の間の宗教性の差は縮まりつつあることも指摘されている(陳2008)。

宗教性と社会階層の関係に関する実証研究として、郭(2013)は、台湾において階級がどのように宗教属性を差異化しているのか1999年から2004年の台湾社会変遷基本調査を用いて分析した結果、以下の知見を明らかにしている。1) 民間信仰には自営業者、下層ホワイトカラーおよび労働者が相対的に多い。2) 道教は全体と比べて

特に目立つ特徴は見られない。3) 仏教には企業経営者と専門管理の二つが際立って多い、4) キリスト教には専門管理と准専門が多い。企業経営者にはキリスト教をやめた人が少なくない。5) 新興宗教：自営業者が最も多く、準専門が少ない。ただし企業経営者には新興宗教をやめた人が少なくない。6) 無宗教：キリスト教に近い。

また Terazawa and Ng (2015) は「台湾社会変遷基本調査」の分析から、2000 年～2010 年間でプロテスタントと無宗教は一貫して階層（学歴、職業威信スコア、収入など）が高い一方、民間信仰や道教は低い傾向にある。そして仏教や一貫道は若干階層が高まる傾向にあると指摘する。

さらに寺沢 (2015c) は「台湾社会変遷基本調査」を用いて 1999 年、2004 年、2009 年時点における慈済会所属者の族群と社会階層（学歴、職業、収入の 3 指標を 1 尺度化したもの）の変遷を検討した結果、女性所属者は族群と社会階層が多様化しつつある一方、男性所属者については閩南系本省人と高階層者が多い傾向にあることを明らかにしている。

いずれも台湾の宗教性と社会階層の関連を示唆する知見であり、台湾の宗教を論じる際に、職業階層や階級が重要な意味を持ちうることを示唆するものである。だが、後述するように教団所属や宗教属性などの「制度的宗教性」に着目しているという限界がある。だが、台湾の場合、教団所属等を前提としない「非制度的宗教性」に着目する必要がある。

たとえば図 3 は信仰する宗教名を尋ねた調査結果である。キリスト教や一貫道を回答した人が少なく、民間信仰や道教、仏教を回答した人は多い傾向にある。しかしながら仏教や道教、民間信仰は調査年によって変動が大きいことに注意しなければならない。これらの宗教は、宗教集団への参加や組織所属を前提とした「非制度的」宗教であり、それぞれの宗教の境界線も曖昧な場合が少なくない。したがって、回答者が各教団への明確な所属を回答したというよりは、むしろ自らをどの宗教であると認識したかという認知の違いを表していると推察される。

図 4 は寺廟などを訪れる頻度を尋ねた設問の結果である。おおむね年に数回、もしくはそれ未満の回答者が多く、分布は右に偏っている。

図 5 は宗教団体への所属状況を尋ねた結果である。慈済会所属者が最も多く、おおむねサンプル全体の 10% 程度であるが、所属者数は必ずしも多いというわけではない。

以上のことから、今日の台湾において、宗教性を所属宗教や寺廟などへの参加頻度などの指標で測定することは、該当者が少ないことや回答の分布が偏る傾向にあるという意味でも必ずしも妥当とは言えない。

一方で、必ずしも宗教団体との関わりを前提としない宗教的態度を見てみる。図 6 は「死後は子孫に祀られるのがよい」という言明に対する賛否を尋ねた設問の回答結果をまとめたものである。1994 年から 2004 年の 10 年間で徐々に賛成しな

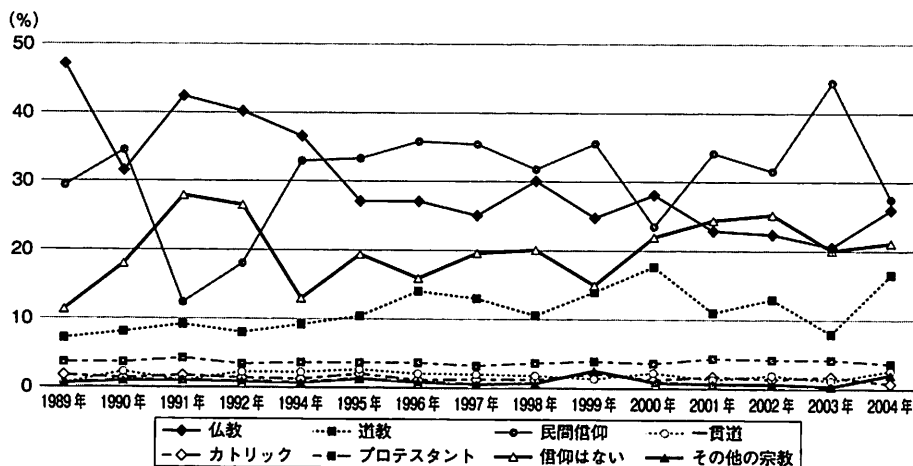


図 3 信じる宗教は何か？ (%)

(出典) 林 (2007a)。データは 1985～2004 年実施の「台湾社会変遷基本調査」

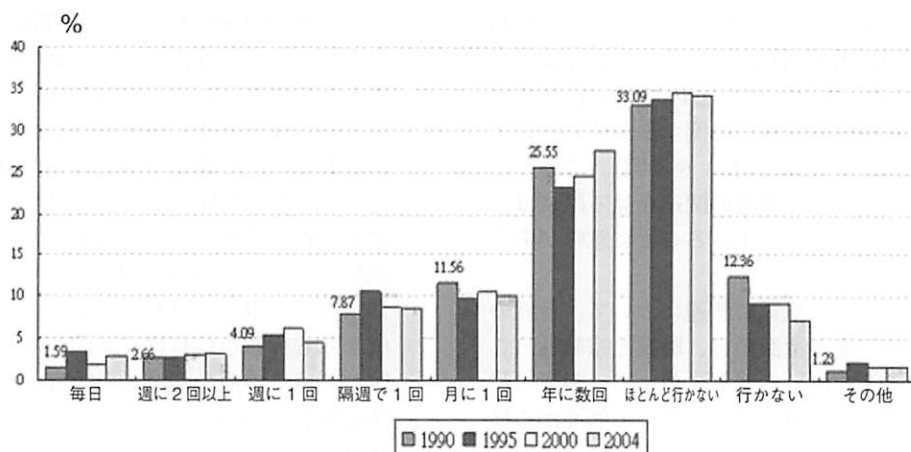


図4 寺廟等を訪れる頻度 (%)

(出典) 林 (2007b)。データは1990～2004年実施の「台湾社会変遷基本調査」。

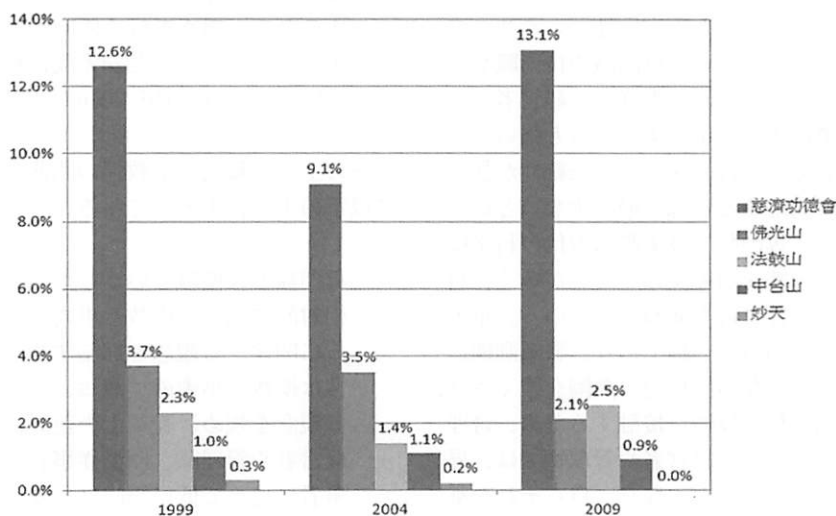


図5 宗教団体への所属 (%)

(出典) 林 (2007c)。データは1999～2009年実施の「台湾社会変遷基本調査」。

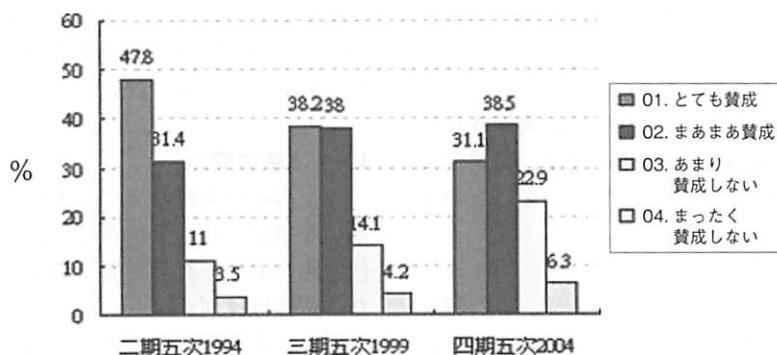


図6 死後は子孫に祀られるのがよいか? (%)

(出典) 陳 (2008)。データは1994

い回答者が増える傾向にあるものの、おおむね60～70%の回答者が賛成する（「とても賛成」と「まあまあ賛成」を合わせたもの）と回答している。他の「非制度的宗教」に関する設問においても同様の傾向が見られる（表1を参照）。このことから、台湾の宗教性と職業の関連を見る際には、「非制度的宗教性」を取り上げることに意味があると推察されている。

「非制度的宗教」と職業の関連について、台湾の宗教社会学者である瞿海源は、職業と宗教性（ここではオカルト志向）の関係について、職業に付帯する合理性と不安定性という2つの側面から検討している。

まず職業に付帯するこの2つの側面については以下のように指摘する。

様々な職業を合理性と不安定性という2つの側面から考えてみると、専門職や技術職や軍人、警察官は合理性が最も強く、経営者や管理職、商業従事者は不確実性が最も強い。そして、農業従事者は、保守性と伝統性が強く、社会変動に適応する資源が最も少ないという特徴がある。専門職と技術職は現代の科学技術に基づく訓練を最も受けることが多く、科学技術は合理性を最も兼ね備えている。軍人や警察官も専門職の一種であり、職業訓練において、現代的な科学技術の薫陶を強く受け、時に最先端の科学技術に接触するため、合理性が最も高くなる。経営者や管理職では、昇進の機会が徐々に少なくなり、自らそれを掌握することができないため、不安定性は相対的に強まる。商業は一種の投資でありリスクの高い職業であるため、リスクの中に置かれることで、不安定性は大きくなる。（瞿 2006：272）

そして1985年、1990年、1995年に実施された「台湾社会変遷基本調査」の分析の結果、職業と宗教性（ここではオカルト志向）について以下のことを明らかにしている。

術数と巫術の実践について言えば、専門職と軍人、警察官は合理性が相対的に高いため、これらの実践を行わないことが予測される。分析の結果、軍人と警察官はこの2つの実践

を行わない傾向にあるが、専門職や技術職は必ずしもそうとは言えない。全般的に言うと、軍人と警察官は、それ以外の職業と比べて占い、安太歳、開運、風水を行わない有意な傾向があるが、巫術については他の職業よりも行わない有意な傾向があるわけではない。経営者や管理職は、占いや風水に関して、他の職業よりも行う有意な傾向があるが、安太歳については軍人と警察官を除いたその他の職業よりも行わない有意な傾向があり、巫術に関してはその他の職業との差異が小さい。商業従事者については術数と巫術の実践傾向が、経営者および管理職に似ており、また占いと風水を行う傾向がある。これらの職業は不安定性が相対的に高いことに起因すると推察される。農業従事者は保守性と伝統性を特徴とするため、風水を行う傾向が強いが、資源が少ないため、占いと安太歳は相対的に行わない傾向にある。（瞿 2006：272-273）

その上で、職業と宗教性の関連パターンについて以下のようにまとめている。

専門職と技術職という2つの職業は合理性が相対的に高く、術数と巫術の実践およびこれらに関連する観念を抑制する。一方、不安定性は術数と巫術の実践およびこれらに関連する観念を強め、職業上の差異について言えば、経営者や管理職、商業従事者は他の職業の従事者に比べて低い傾向にあり、このことはこれらの職業に付帯する不確実性の高さに起因するものである。（瞿 2006：288）

重要な研究である。しかしながら、職業の相対的な説明力、族群との説明力の違いなどは検討されておらず、今後の課題として残されている。

1.4 本稿の問い

以上の前提を踏まえて、本稿では以下の2つの問いを道標として分析を行う。第1の問いは「現代台湾において社会階層（職業）によって規定される宗教性は何か？」というものである。上述した通り、社会階層の中核的要因である職業階層について、統計的に有意な関連の見られる宗教性を探り、その関連の方向性や大きさはどのようなも

のなのかを探る。ここから、今後「階層意識」として検討していくべき宗教性を見出したい。

第2の問いは「職業と宗教性の関連は族群と宗教性の関連と比べて相対的に強いのか？」である。族群は台湾の宗教性の強い規定要因なのか、その規定力は職業と比べてどの程度のものなのか、「族群意識」と呼べるのか。第1の問いとあわせて、その答えを探索したい¹⁾。

2. 方法

2.1 データ

本稿で使用するデータは、2009年に実施された「台湾社会変遷基本調査」(以下、TSCS)の宗教モジュール(以下、TSCS-2009(II))である。TSCSは中央研究院社会学研究所が中華民国行政院国家科学委員会の支援のもと台湾で毎年実施しているサンプリング調査である(第3期第1次調査以前の調査主体は中央研究院民族学研究所)。1985年の第1回調査以降、家族・ジェンダー・社会階層・文化・余暇活動・宗教など様々なトピックの調査が、ほぼ5年単位のローテーションで繰り返し実施されている。TSCSは台湾を代表する社会調査であるとともに、東アジア最大規模の社会調査データであるとも言われている。2002年以降は、代表的な国際比較調査である“International Social Survey Program”(ISSP)や日本・中国・韓国と共同で実施する“East Asian Social Survey”(EASS)に参加し、国際比較調査としての役割も担うようになっている。データセットはすべて二次データとして一般公開されている(寺沢2015a)

TSCS-2009(II)の調査対象は、層化三段抽出法によって抽出された、台湾全土の18歳以上(実際のサンプルに含まれているのは20歳以上)の男女である。TSCS-2009(II)の対象者は4488人、有効回収数は1927人、有効回収率は42.9%である。TSCS-2009(II)の質問項目は1)回答者の基本状況、2)宗教信仰、3)宗教的態度、4)個人的宗教行為、5)呪術と法術、6)慈善団体に関する行為、7)社会的議題、8)文化価値志向、9)慈善観念、10)各種文化の認知と評価、11)日常生活、12)個人および家庭の状況である。TSCS-2009(II)にはISSP-2008-Religion(III)と共通する質問項目も含まれており、国際比較分

析も可能である(傅・杜2010)。

TSCS-2009(II)のメリットは宗教に関する多彩な設問が含まれていることである。特に輪廻・氣功・祖先崇拜など台湾の宗教状況を測定するための設問が含まれていることのメリットは大きい。またISSPの設問も含まれているため国際比較分析を通じて台湾の特徴を見出すことも可能である。しかしながら、ISSPの設問が組み込まれたことに伴って、以前の宗教モジュールに組み込まれていた様々な設問(占い、神秘体験など)がはずされたため、こうした台湾の宗教状況により則した宗教性と社会階層の関係が分析できなくなっている。この点に関しては、他の年に行われた宗教モジュールを分析することで、今後補っていく予定である。

20歳以上の男女有職者をサンプルとして使用する。職業の影響力、および宗教性の特徴は男女で異なることが予想されるため、男女別の分析を行う。

2.2 従属変数

台湾を含む東アジア社会においては、教団所属や参拝といった組織性を前提とした宗教性(制度的宗教性)よりも、組織性を前提としない「非制度的宗教性」がむしろ一般的である(瞿2006b)。たとえば、本人が信仰を自覚せず、特定の宗教団体に所属せずとも、祖先崇拜や祈願、賽銭などの宗教行動を個人や家族単位で日常的に行われる場合が少なくない(陳2008)。宗教行動を行わない場合であっても、道教や仏教に由来する価値観が、家族意識や利他意識などの様々な社会意識に影響を与えている場合がある。その意味で、所属教派や教会出席頻度などを主たる変数としたキリスト教社会の分析とは異なり、台湾の分析においては、宗教性に関するより多様な変数を取り上げる必要がある。

TSCS-2009(II)には100問近い設問が設けられており、本稿で従属変数として扱う宗教性に関する変数としては、4件法以上の尺度の設問を使用する。該当する変数は全部で55個あり、そのうちISSP用の設問が31問、TSCSの設問が24個である(表1)。選択肢の値については、大きい値が変数の言明を肯定、小さい値が変数の言明を否定するように反転させている。

これらの変数について概観すると、「神鬼・靈魂

表1 従属変数の詳細と基本統計量

変数名	変数の詳細	平均 (男性)	標準偏差 (男性)	平均 (女性)	標準偏差 (女性)	最小値	最大値
神鬼・靈魂観念(最高神)	宇宙には唯一の最高神が存在する	2.644	.876	2.925	.747	1	4
神鬼・靈魂観念(靈魂)	死後も人の魂は存在する	2.932	.822	3.119	.719	1	4
神鬼・靈魂観念(亡者)	祀られない魂はこの世をさまよう	2.665	.837	2.906	.747	1	4
神鬼・靈魂観念(悪依)	悪依現象は存在する	2.595	.860	2.767	.746	1	4
縁起観念(出会い)	誰と出会い、誰と一緒にいるかは前世で決められている	2.751	.880	3.019	.782	1	4
縁起観念(結婚相手)	悪い相手と結婚するのは前世の報いである	2.396	.902	2.701	.920	1	4
縁起観念(労働)	子供のためにあくせく働くのは前世の報いである	2.404	.916	2.635	.900	1	4
気功観念(病気)	気功で病気を治せる	2.478	.822	2.637	.778	1	4
気功観念(鍛錬)	人の気は鍛錬で強くできる	2.801	.812	2.876	.783	1	4
気功観念(息災)	気がとても強ければ、何物もその人を害することはできない	2.461	.870	2.528	.828	1	4
気功観念(陰陽)	陰陽の調和を保つことで、心身健康になる	2.969	.805	2.987	.800	1	4
気功観念(磁場)	病気の原因は小磁場(人)と大磁場(宇宙)の不調和にある	2.477	.836	2.531	.858	1	4
超心理学	靈魂の存在は科学で証明できる	2.281	.809	2.469	.783	1	4
神必要	一生懸命働けば、神に頼る必要はない	3.409	.719	3.245	.784	1	4
祖先崇拜観念	死後は子孫に祀られるのがよい	2.907	.846	2.827	.874	1	4
因果観念(子孫)	善行と悪行は子孫の幸福に影響する	3.272	.748	3.410	.709	1	4
因果観念(本人)	善行と悪行はその人のその後の人生に影響する	3.044	.865	3.269	.816	1	4
※死後の世界を信じる	死後の世界の存在を信じる	2.575	.812	2.800	.740	1	4
※天国を信じる	天国の存在を信じる	2.586	.783	2.837	.688	1	4
※地獄を信じる	地獄の存在を信じる	2.604	.768	2.874	.679	1	4
※宗教的奇跡を信じる	宗教的奇跡の存在を信じる	2.623	.755	2.827	.682	1	4
※輪廻転生を信じる	輪廻転生(生まれ変わり)の存在を信じる	2.618	.772	2.855	.718	1	4
※涅槃を信じる	涅槃(悟りの境地)の存在を信じる	2.446	.772	2.627	.731	1	4
※祖先の霊的力を信じる	祖先の霊的力の存在を信じる	2.602	.775	2.762	.657	1	4
※至高神の存在	すべての人に上帝(至高神)は存在している	3.338	1.085	3.600	.966	1	5
※至高神の意義	上帝(至高神)が存在するからこそ、私の人生には意味がある	2.632	1.067	2.899	.998	1	5
※スピリチュアリティ(宗教不要)	教会や宗教儀式に頼らなくても、上帝(至高神)とつながる私なりの方法がある	2.904	1.094	2.908	1.059	1	5
※宗教施設参加頻度	寺院・廟・神壇・教会に行く頻度	4.278	1.735	4.419	1.630	1	9
※祈り頻度	祈りの頻度	4.440	3.150	5.307	3.162	1	11
※宗教活動参加頻度	宗教団体の活動に参加する頻度(法会や礼拝を除く)	2.142	1.512	2.289	1.680	1	9
※宗教目的参加頻度	宗教目的で寺院・廟・神壇・教会の儀式に参加した頻度(法会や礼拝を除く)	3.634	.868	2.621	1.433	1	5
※信仰度	自分は信仰熱心である	4.836	1.100	5.062	.994	1	7
※宗教の効用(安らぎ)	宗教は心の安らぎや幸福感が得るのに役立つ	4.111	.740	4.270	.691	1	5
※宗教の効用(友人)	宗教は友人をつくるのに役立つ	3.849	.837	3.935	.829	1	5
※宗教の効用(癒し)	宗教は困難や悲しみを癒すのに役立つ	4.012	.783	4.220	.690	1	5
※宗教の効用(良識人)	宗教は良識を持った人と知り合うのに役立つ	3.687	.903	3.758	.903	1	5
※政教分離(選挙)	宗教の指導者は、選挙の投票に影響を与えようとすべきではない	4.493	.753	4.438	.769	1	5
※政教分離(政府)	宗教の指導者は、政府の決定に影響を与えようとすべきではない	4.425	.808	4.388	.811	1	5
※宗教と科学	私たちは科学を借用しすぎていて、宗教への信仰が不足している	2.988	.979	2.996	.950	1	5
※宗教と争い	世界中を見まわしてみると、宗教は平和よりも争いをもたらすことが多い	3.116	1.024	2.987	.999	1	5
※宗教と不寛容	信仰心の強い人々は、そうでない人達に対して不寛容になりがちである	3.077	1.045	2.945	1.068	1	5
※宗教団体の影響力	宗教団体の台湾における影響力は強すぎる	3.634	.868	3.438	.845	1	5
※宗教団体への等しい権利	台湾の宗教団体はすべて同等の権利を持つべきだ	4.044	.825	3.918	.832	1	5
※宗教団体への等しい敬意	私たちはあらゆる宗教に敬意を払わなくてはならない	4.269	.670	4.272	.634	1	5
※宗教的寛容(結婚)	宗教や宗教に対する考え方が異なる人が自分の親戚と結婚することを受け入れる	3.547	.743	3.497	.744	1	4
※宗教的寛容(投票)	宗教や宗教に対する考え方が異なる人が自分の支持する政党の候補者になることを受け入れる	3.466	.776	3.474	.709	1	4
※宗教的寛容(集会)	極端に排他的信仰を持つ人が自分たちの考えを表明するために集会を開くことは許される	2.288	1.105	2.286	1.029	1	4
※宗教的寛容(出版)	極端に排他的信仰を持つ人が自分たちの考えを本にして出版することは許される	2.683	1.046	2.646	.965	1	4
スピリチュアリティ(霊的成長)	成長には霊的成長も含まれていなければならない	3.076	.571	3.196	.555	1	4
スピリチュアリティ(神仏に近づく)	宗教団体に参加しなくても、自分の霊的な修練を通じて仏や神に近づくことができる	2.852	.662	2.852	.646	1	4
スピリチュアリティ(神通力)	潜在的な力を高めることで、神通力を身に着けられる	2.238	.717	2.209	.654	1	4
※宗教団体への寄付額	宗教団体に寄付をした金額(過去1年)	4012.500	13712.240	2660.613	7391.165	0	120000
※宗教団体への信頼	宗教団体・教会を信頼している	3.007	.770	3.137	.624	1	5
因果慈善(天国/地獄)	良い行いをすれば天国に行き、悪い行いをすれば地獄に行く	2.769	.882	3.056	.776	1	4
因果慈善(来世での良い生活)	良い行いをする人は、来世でも良い生活を送れる	2.896	.844	3.113	.748	1	4

(出所) TSCS-2009(II)の調査票から作成。

(注) ※は ISSP 用の設問。変数名の作成に際しては、瞿(2006、2012)と陳・他(2011)を参考にしている。

観念」から「因果観念」に至る変数は台湾における「基層信仰」として定位されている宗教的態度である（瞿 2006、2012）。たとえば神鬼・靈魂観念とは、玉皇上帝などの各種神格への信仰、およびそうした神格が構成するパンテオン（天国や地獄）や神格が定めた運命を信じること、死者の靈魂や亡者の存在、憑依現象などを信じることである。縁起観念は人との出会いがすでに前世で決められていることを信じること、因果観念は生まれ変わりを繰り返すこと、および現世での行いが来世に影響を与えることを信じるといった宗教的運命主義である。気功観念は人間には気というものがあること、鍛錬で気を強めることができること、気で病気を治せることなどを信じることである。これらの他に TSCS-2009（II）では、制度的宗教行動（寄付、宗教施設参加頻度など）、脱伝統的な宗教性である「スピリチュアリティ」に関する設問が組み込まれている。TSCS-2009（II）で大幅に取り入れられた ISSP の設問においては、宗教の効用に関する設問、政教分離に関する設問、宗

教的寛容さに関する設問など、よりグローバルな形での宗教性を問うた設問が中心である。

変数の範囲と平均を見ると、ほとんどの変数についてその言明を肯定する人が多い傾向にあることがわかる。また女性の方が男性よりも全般的に平均が高めである。

2.3 独立変数

職業は「社会経済指標」（改良版台湾地区新社会経済指標²⁾³⁾⁴⁾（黄 2008：159）を使用する。さらに族群（閩南系本省人および客家系本省人を1、外省人=0）、実年齢、教育年数⁵⁾、世帯月収⁶⁾も用いる。独立変数の基本統計量は表2にまとめている。また無業を含めたカテゴリーカルな職業の分布については、「五等社経地位」（黄 2008：158）を用いて表3にまとめている。

2.4 分析方法

重回帰分析を用いた社会意識論型回帰モデル（吉川 2014）を使用する（図1）。上述の変数を投

表2 独立変数の基本統計量

男性有職者	平均値／％	標準偏差	最小値	最大値
実年齢	43.267	12.952	20	87
族群（本省人＝1）	88.7％		0	1
教育年数	12.607	3.756	0	21
職業（社会経済指標）	57.247	16.827	28.5	98.7
世帯月収	73817.200	68055.440	10000	750000
女性有職者	平均値／％	標準偏差	最小値	最大値
実年齢	40.128	11.533	20	74
族群（本省人＝1）	84.6％	.362	0	1
教育年数	12.573	3.862	0	21
職業（社会経済指標）	57.513	15.958	28.5	98.7
世帯月収	76002.200	72117.440	0	1000000

表3 職業の分布

	男性		女性	
	度数	％	度数	％
第五等（専門職、管理職、公務員）	88	9.0	67	7.1
第四等（準専門職）	102	10.4	95	10.1
第三等（事務員）	39	4.0	117	12.4
第二等（組立機械操作従事者、熟練労働者、サービス業者、集金業者）	279	28.4	142	15.0
第一等（農林水産業者、非熟練労働者）	92	9.4	64	6.8
無業	382	38.9	460	48.7
合計	982	100.0	945	100.0

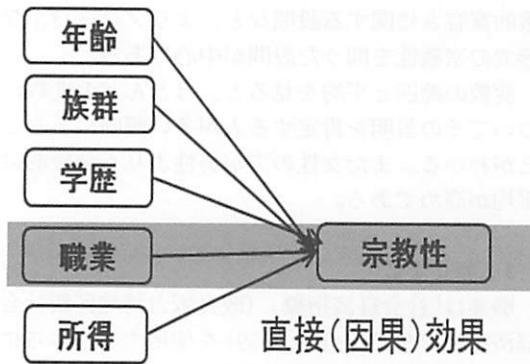


図7 分析モデル

入することで、これらの要因を削ぎ落とした上での職業の独自の影響力が判定可能である。ピアソンの積率相関係数 (r) も算出し、諸変数を統制する前の関係 (見せかけの関係か否か) も確認する。

本稿ではどのような宗教性が職業によって規定されるかはあらかじめ定めない。ある社会意識が階層意識であると判断するためには、調査データで階層要因との明確な関連が実証されることが必須であり (吉川 2011)、台湾の宗教性と階層のように十分検討されていないトピックについては特にデータの探索的分析が重要である。

なお本稿の分析結果を読む際に以下の3つの留意点がある。第1に本稿の重回帰分析は、個々の従属変数と独立変数の詳細な議論のための最終モデルではなく、関連パターンの全体的な傾向を把握するための探索的なモデルである。そのため関連性はやや低い値を示している。

第2に、本稿では、似た内容の従属変数であっても、それらの変数を因子分析等の方法で縮約はせず、別々の変数として分析している。そのため似た内容の変数であったとしても、変数によって関連性の強さが異なる場合がある。その違いに意味がある可能性もあるが、従属変数の測定誤差に起因している可能性もある。そのため従属変数ごとの関連パターンの違いがもつ意味を詳細に検討するのではなく、全体像を鳥瞰する。

第3に本稿では社会階層が宗教を規定するという因果関係を前提としている。しかしながら宗教が社会階層に影響を与えるという逆方向の因果関係、さらには社会階層と宗教が影響を与え合う双方向因果が存在する可能性は否定できない。だがTSCS-2009 (II) は一時点のクロスセクションデータのため、因果関係そのものを明らかにする

ことはできない。本稿でいうところの因果関係は、あくまで因果関係を想定した関連にとどまらざるを得ないことに留意する必要がある。

3. 分析結果

3.1 現代台湾において職業によって規定される宗教性は何か？

まず職業の相関係数の二乗 (単回帰分析の決定係数に相当) で職業の説明力を示し (族群も提示)、これと重回帰分析の決定係数 (R^2) と並べてグラフで提示する (吉川 2008: 148-154)。結果は図8～9にまとめている。ここでは単独の説明力を確認する。説明力の強さの便宜的な基準として、 r^2 が .040 以上を強い説明力、.020 以上 .040 未満を中程度の説明力、.002 未満を弱い説明力とそれぞれ定義する。

職業については、男性有職者では縁起観念 (結婚相手)、祖先崇拜観念、縁起観念 (労働)、女性有職者では祖先崇拜観念、スピリチュアリティ (霊的成長)、縁起観念 (労働)、スピリチュアリティ (宗教不要)、に対しての強い説明力が確認された。中程度の説明力をもつものについては、男性有職者では宗教の効用 (癒し)、神鬼・靈魂観念 (亡者)、因果観念 (本人)、輪廻転生を信じる、祖先の霊的力を信じる、宗教団体への寄付額、因果慈善 (来世での良い生活)、女性有職者では超心理学、政教分離 (政府) に確認された。これら以外の従属変数に対してはおおむね弱い説明力だった。

一方の族群の説明力は、全体的に見て、単独レベルでも相対的に弱い。強くても r^2 は .020 程度である。職業と比べても小さく、職業を超える説明力を示すものはわずかである。

表4は、重回帰分析における職業と族群の相関係数 (r)、標準化偏回帰係数 (β)、決定係数 (R^2) を抜き出したものである (5%水準で有意な変数のみ)。

単相関レベルでの職業と従属変数の関連 (r) が職業以外の独立変数の効果を統制する (重回帰分析) ことでどのように変化したのか (β) を確認してみると、55問のなかで有意であったのは、男性有職者サンプルでは23問 (r) $\Rightarrow$ 7問 (β)、女性有職者サンプルでは21問 (r) $\Rightarrow$ 7問 (β) に変化している。単相関レベルではデータセットの中の約半数の従属変数に対して職業が有意な関連を示

■ 族群の説明力 ■ 職業の説明力 ■ 独立変数すべてを合わせた説明力

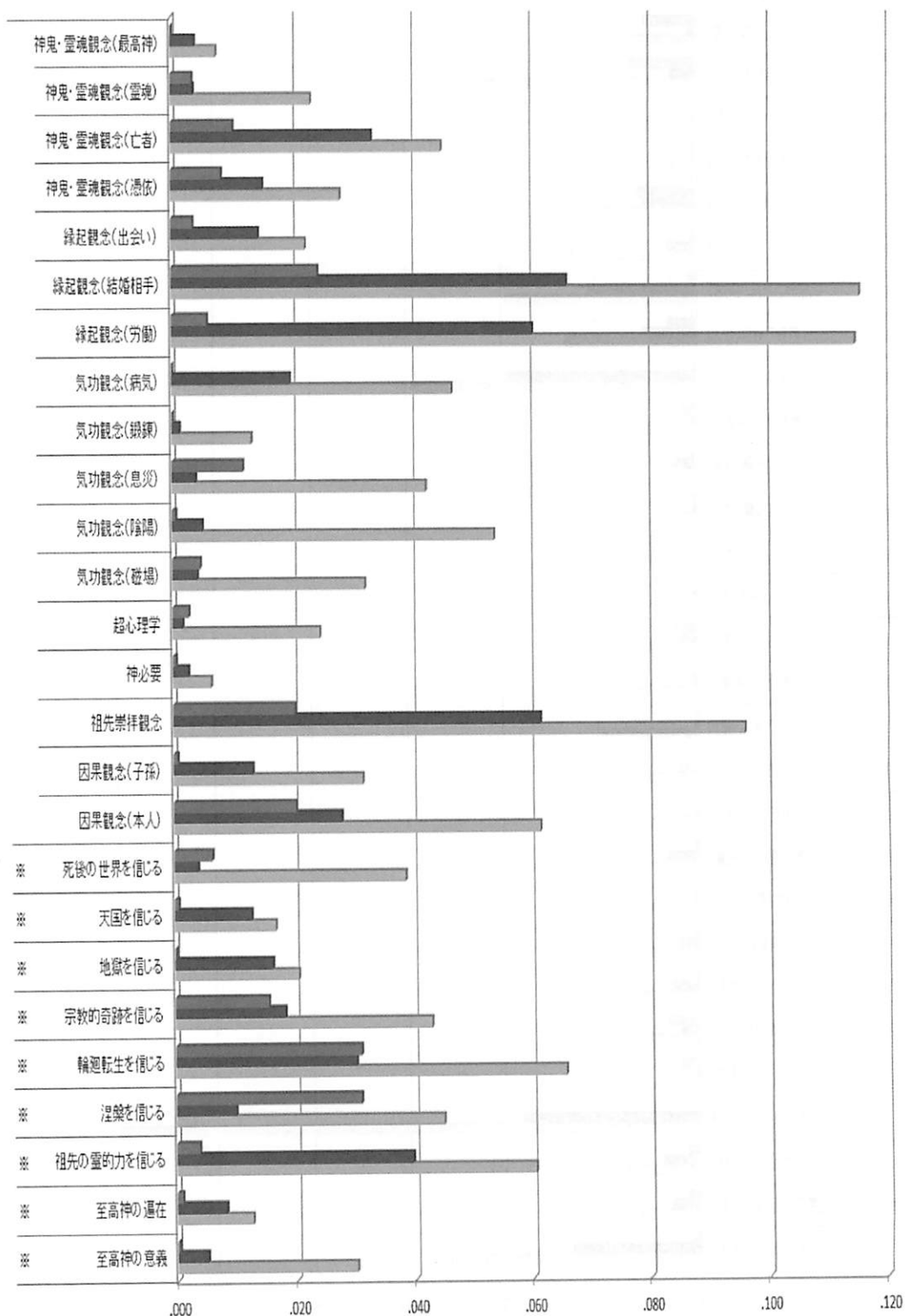
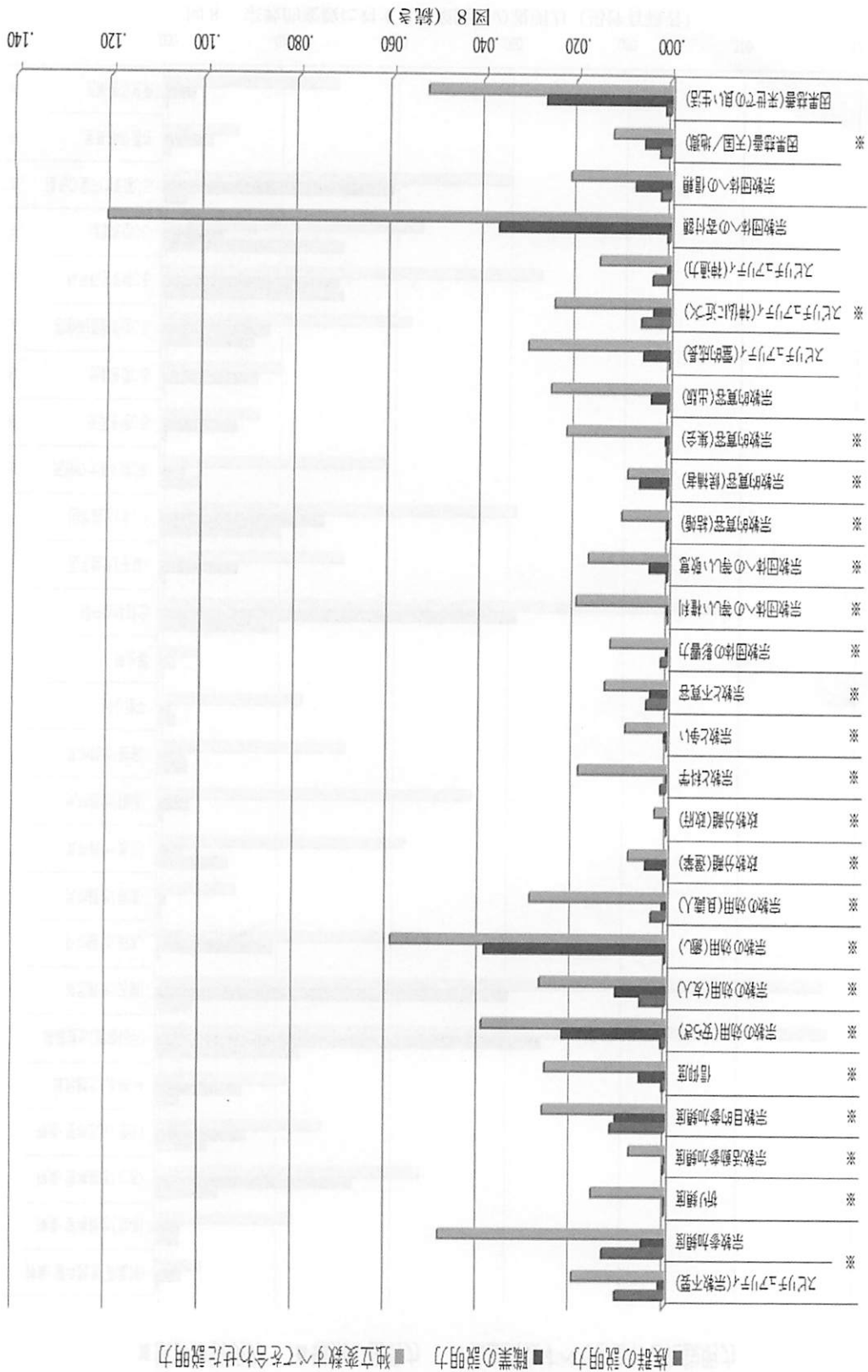


図8 宗教的変数に対する職業階層の説明力 (男性有職者)



■ 族群の説明力 ■ 職業の説明力 ■ 独立変数すべてを合わせた説明力

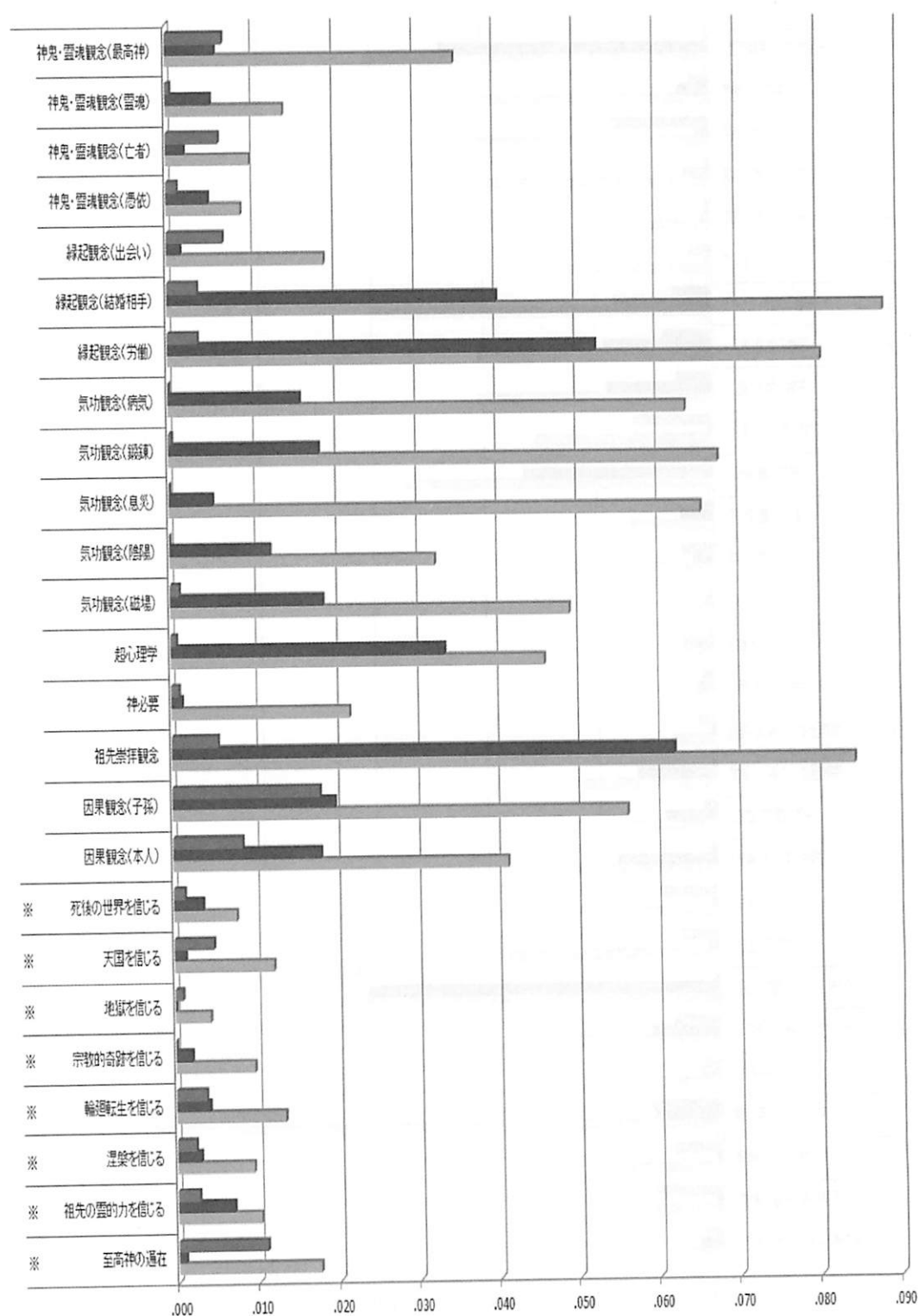
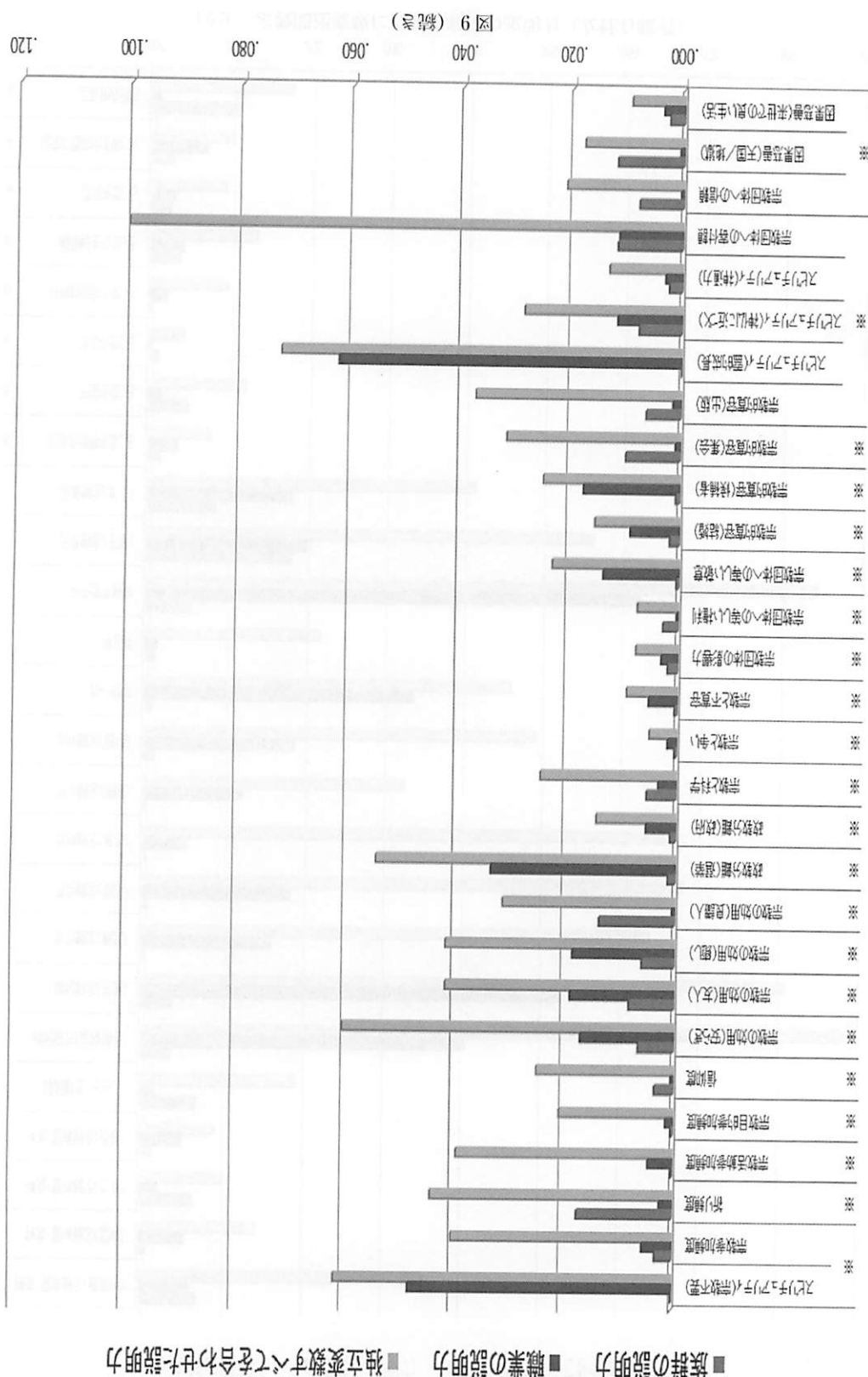


図9 宗教関連変数に対する職業の説明力(女性有職者)



■ 民族群の説明力 ■ 職業の説明力 ■ 独立変数すべてを合わせた説明力

表4 相関係数 (r)・標準化偏回帰係数 (β)・決定係数 (R²) の一覧 (職業と族群)

変数名	男性					女性				
	職業		族群		R ²	職業		族群		R ²
	r	β	r	β		r	β	r	β	
神鬼・靈魂觀念(亡者)	-.183	-.175	.101	.087	.045					
縁起觀念(出会い)	-.120	-.117			.022					
縁起觀念(結婚相手)	-.258	-.189	.156	.141	.116	-.202				.089
縁起觀念(労働)	-.247	-.113			.115	-.230	-.132			.081
気功觀念(鍛錬)						.136	.136			.068
気功觀念(息災)			-.109	-.120	.043					.066
超心理学					.025	.184	.141			.046
祖先崇拜觀念	-.249	-.177	.142	.122	.096	-.250	-.174			.085
因果觀念(子孫)	-.115				.032	-.141		.135	.132	.057
因果觀念(本人)	-.167	-.146	.143	.139	.062	-.135				.042
※ 輪廻転生を信じる	-.174		.176	.157	.066					
※ 涅槃を信じる	-.100		.176	.159	.045					
※ スピリチュアリティ(宗教不要)			.102	.114		.219	.131			.062
宗教参加頻度			.115	.100	.049					.040
※ 折り頻度								-.131	-.126	.044
※ 宗教目的参加頻度	.103		-.108	-.096	.026					.021
※ 宗教の効用(癒し)	.197	.134			.059	.136				.042
※ 宗教の効用(良識人)					.029			-.117	-.112	.031
※ 政教分離(選挙)						.183	.141			.054
スピリチュアリティ(霊的成長)					.030	.249	.234			.073
スピリチュアリティ(神仏に近づく)				.094	.025	.107				.028
宗教団体への寄付額	.192				.121	.107		-.108	-.097	.100

(注) ※は ISSP 用の設問。5%水準で有意の数値のみ提示。

男女ともにモデルそのものが有意でないもの、モデルが有意でも職業と族群の両方が有意でないものは省略。

していたものの、諸変数をコントロールすると有意な関連を示す従属変数は20%~30%程度に減少している。

なお ISSP よりも TSCS の設問に有意な関連の見られる変数が多い傾向がある。この結果は、台湾においては ISSP などの国際比較調査用の宗教的設問よりも、台湾の宗教状況をより踏まえた設問の方が、職業との関連が見えやすいことを示唆している。

以上の重回帰分析の結果で職業との間に有意な関連の見られた従属変数が、職業との関連で考えるべき変数であると思われる。なぜなら、他の変数を統制した上での職業に有意な関連が見られたということは、それらの従属変数に対して、他の要因には還元できないような関連を職業が有している可能性が示唆されたためである。

関連の方向性については、正の関連(職業的地

位の高い人と関連する)が見られたのは、男性有職者では宗教の効用(癒し)のみ、女性有職者では気功觀念(鍛錬)、超心理学、スピリチュアリティ(霊的成長)、スピリチュアリティ(宗教不要)、政教分離(選挙)、である。一方、負の関連(職業的地位の低い人と関連する)が見られたのは、男女有職者ともに縁起觀念(労働)、祖先崇拜觀念、男性有職者では神鬼・靈魂觀念(亡者)、縁起觀念(結婚相手)、縁起觀念(労働)、因果觀念(本人)、因果觀念(出会い)、女性有職者では祖先崇拜觀念、縁起觀念(労働)である。

3.2 職業と宗教性の関連は族群と宗教性の関連と比べて相対的に強いのか?

補助的問いとして取り上げた族群との関連はどうだろうか。職業と同様の方法で単相関と重回帰分析の有意性の変化を確認すると、55問のなかで

表5 重回帰分析の結果(数値は β 、職業が有意なもののみ)

男性							
	神鬼・靈魂觀念 (亡者)	縁起觀念 (出会い)	縁起觀念 (結婚相手)	縁起觀念 (労働)	祖先崇拜觀念	因果觀念 (本人)	宗教の効用 (癒し)
実年齢	-.069	.071	.121 **	.037	-.078	.120 *	.149 **
族群(本省人=1)	.087 *	.057	.141 **	.053	.122 **	.139 **	.041
教育年数	-.025	.003	-.097	-.259 ***	-.182 **	-.013	.095
職業	-.175 **	-.117 *	-.189 ***	-.113 *	-.177 **	-.146 **	.134 **
世帯月収	.015	.013	.023	.068	.085	.013	.053
R ²	.045 ***	.022 *	.116 ***	.115 ***	.096 ***	.062 ***	.059 ***
N	548	553	548	553	558	556	555
女性							
	氣功觀念 (鍛錬)	超心理学	政教分離 (選挙)	縁起觀念 (労働)	祖先崇拜觀念	スピリチュアリティ (宗教不要)	スピリチュアリティ (霊的成長)
実年齢	.225 ***	-.034	.028	.077	-.085	-.010	.118 *
族群(本省人=1)	-.015	.036	.054	.054	.056	.022	.022
教育年数	.042	.082	.122	-.134	-.176 *	.141 *	.061
職業	.136 *	.141 *	.141 *	-.132 *	-.174 **	.131 *	.234 ***
世帯月収	.071	-.066	-.122 *	.025	.082	-.009	.003
R ²	.068 ***	.046 **	.054 ***	.081 ***	.085 ***	.062 ***	.073 ***
N	447	436	451	451	451	430	426

(注) *** p<.001 ** p<.01 * p<.05

有意であったのは、男性有職者では12問($r \Rightarrow 9$ 問(β))、女性有職者では7問($r \Rightarrow 5$ 問(β))に変化している。男性の場合、族群が有意なものは職業よりやや多く、女性では職業よりやや少ない傾向にある(表4)。表5においても族群が有意な関連を示す従属変数はあるものの、職業以上の関連度を示すものは確認できなかった。

4. 要約と議論

本報告では、族群との比較も補足的に行いながら、職業が現代台湾における宗教性どう関連しているのかということを探的に分析し、現代台湾において階層意識と呼ぶ宗教性の現状を検討した。

第1の問いは「現代台湾において社会階層(職業)によって規定される宗教性は何か?」ということについては以下のように答えられる(図10)。

まず祖先崇拜觀念や縁起觀念といった「基層信仰」が、男女とも職業的地位の低さから強い影響を受ける。職業的地位の高い女性は脱伝統的宗教

性や、政教分離志向などと結びつく一方、男性では職業的地位の高さと宗教性はあまり明確ではなく、逆に職業的地位の低さと「基層信仰」との結びつきより顕著であることが分かった。男女ともに職業的地位の低さとの関連が強く、今後、台湾の宗教研究で階層意識としてまず検討すべきはこうした「基層信仰」であるといえよう。

その他の宗教性については、ジェンダー差と交差しながら階層差が生じている。職業的地位の高い女性は脱伝統的宗教性や、政教分離を求めるといった社会制度への価値観をもつ。この点は台湾の宗教状況を必ずしも踏まえたとは言えないISSPの設問と職業の関連が、女性において比較的明瞭だったことから推察される。一方、男性においては職業的地位の高さと宗教性はあまり明確ではなく、逆に低階層者における「基層信仰」との結びつきが相対的に顕著である。同じく職業的地位が高いとはいっても、男性は女性に比して「宗教的な落ち着きどころ」が見当たらないのかもしれない。

第2の問いである「職業と宗教性の関連は族群と宗教性の関連と比べて相対的に強いのか?」に

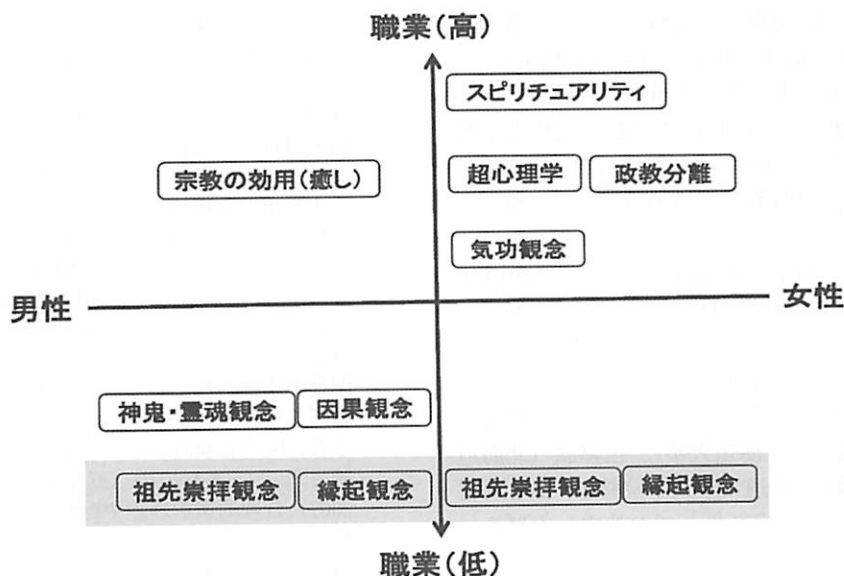


図 10 職業と宗教性 (男女別)

については以下のような答えである。族群単独で見た場合でも族群の説明力は総じて弱く、職業の説明力を超えるものはほとんど見られない。族群以外の変数を統制した場合でも、族群に職業を超えるほどの説明力は確認できなかった。族群には宗教性を形成する強い作用、職業を凌駕するような作用は必ずしも認められない。

この結果は、外省人と本省人の間の宗教性の差が徐々に狭まりつつあるという先行研究に沿うものであり (陳 2008)、2009 年時点においても外省人と本省人という区分が必ずしも宗教性の違いを説明できる有力な要因として同定しにくいことを示している。こうした結果は、宗教性における族群の関連という台湾の宗教のユニークさを切り崩す結果にもなりうる。だがこの結果は、社会階層とのかかわりで論じるという近年の宗教社会学の潮流に台湾の宗教研究を接続することにもなりうる。また「職業とパーソナリティ」研究では宗教性の議論がさほどされてこなかったが、近年の台湾においては宗教性を軸とした「職業とパーソナリティ」研究の蓄積の可能性も示唆される。

本稿の限界と課題は以下の通りである。第 1 に、取り上げた宗教性が限定的である。TSCS-2009 (II) では ISSP の設問を組み込むために、以前のデータで設けられていた民間信仰、呪術等に関する設問が大幅に除外されている。因果観念等と職業の関連を示す本稿の知見からは、むしろこうし

た設問を検討すべきであると思われる。第 2 に、職業と族群の関連パターンの変遷を検討していない。族群の効果の弱まりと入れ替わる形で職業の効果が強まりつつあることが推察されるが、複数時点のデータで検討する必要がある。第 3 に、宗教性以外の社会意識の検討である。職業と宗教性の関連度は、たとえば政治意識と職業の関連度と比べてより明確なものなのか。職業よりも族群によって強く規定される社会意識とはどのようなものか。他の社会意識との比較を行うことで、宗教性と社会階層・族群の関連パターンの特徴がより明確になるとともに、台湾における社会意識の規定構造の解明も可能になるだろう。

[Acknowledgement]

East Asian Social Survey (EASS) is based on Chinese General Social Survey (CGSS), Japanese General Social Surveys (JGSS), Korean General Social Survey (KGSS), and Taiwan Social Change Survey (TSCS), and distributed by the EASSDA.

本稿の分析には「台湾社会変遷基本調査」の第 5 期第 5 次調査データを使用した。「台湾社会変遷基本調査」の調査主体は台湾中央研究院社会学研究所であり (第 3 期第 1 次調査以前の調査主体は台湾中央研究院民族学研究所)、中華民国行政院国家科学委員会の支援を受けている。本研究は日本

学術振興会科学研究費の「台湾における宗教性・社会階層・精神的健康に関する社会学的研究」(若手研究B、研究代表者:寺沢重法、課題番号:15K20821)、「東アジアにおける宗教多元化と宗教政策の比較社会学的研究」(基盤研究B、研究代表者:櫻井義秀、課題番号:25301037)の一環として行われた。

本稿は日本台湾学会第17回学術大会(2015年5月23日、東北大学川内北キャンパス)で発表した「社会階層によって規定される宗教性とは何か?—職業階層に着目して—」に基づいている。また、本研究に際して、金戸幸子氏(藤女子大学)、櫻井義秀(北海道大学)、伍嘉誠(北海道大学)、寺沢梢(北海道大学大学院修了)から助言をいただいた。この場を借りてお礼申し上げる。

注

- 1) 本稿は近年の宗教社会学に対しても意義をもつ。宗教社会学においてはマルクスの「民衆の阿片」、あるいはウェーバーの「幸福の神義論と苦難の神義論」という概念に代表されるように、宗教性と階層・階級の関連について古くから論じられてきた。1940年代から1970年代のアメリカの宗教社会学においても所属教派と階層・階級の関係がしばしば論じられてきたCantril 1943; Lazerwitz 1961; Demerath 1964; Fukuyama 1961; Davidson 1977)。しかしながらその後は、宗教の合理的選択理論や宗教市場理論の隆盛に伴い、階層・階級と宗教性の関連についての関心は必ずしも主流の研究テーマではなくなっている(郭 2013)。しかしながら近年は階層・階級と宗教性の関連が依然見られることがしばしば指摘されるようになっていく(Lehrer 1995; Darnell and Sherkat 1997; Sherkat 1998; Sherkat and Darnell 1999; Morfan 2001; Coreno 2002; Glass and Jacobs 2005; Smith and Faris 2005; Pyle 2006; Schiman 2010)。また世界価値観調査を用いた国際比較分析においても、宗教施設参加頻度の違いは、各国の世俗化度や宗教市場開放度よりも、各国の経済格差の大きさによって説明されることが指摘されている(Ruiter and Tubergen 2010)。これらの知見は、これらの知見は宗教性を論じる上で階層・階級・不平等といった軸が有効であることを示すものである。このような流れを受けて、近年では階層・階級と宗教性に関するまとまった論考も出版されるようになっていく(Davidson and Pyle 2011; Keister 2011; Keister eds. 2012; Keister and Sherkat eds. 2014)。しかしながら、多くはアメリカのキリスト教を扱った

研究であり、東アジアなどの非欧米・非キリスト教文化圏における階層・階級と宗教性の関連を扱った知見は、一部見られるものの(Kim 2002; Roemer 2009; Yang 2012)、まとまった研究はほとんど行われていない。こうした点において台湾は階級・階層と宗教性の関連を論じる上で重要な地域である。第1に台湾では民間信仰や仏教、道教などの非キリスト教系の宗教が主流である。第2に多面的な宗教性を分析できるだけのデータが蓄積されている(寺沢 2015a)。第3に、階層・階級階層と様々な社会意識(文化、ライフスタイル、幸福感など)の関連が指摘されている(章 1997; 朱 2000; 翟 1997; 黄 1998a, 1998b)。そして階層・階級と宗教の関連を検討すること重要性はしばしば指摘されているものの(五十嵐 2006; Madsen 2007)、合理的選択理論や行動経済学に基づく分析が中心であり(郭 2001; Chang 2005, 2006; Liu 2010; 李・盧 2010; Chou and Su 2011)、実証分析はあまり行われていない(郭 2013; Terazawa and Ng 2015)。以上のことから、本稿は近年の宗教社会学においても意義をもつだろう。また、近年の欧米の宗教社会学(特にアメリカ)においても宗教性と社会階層に関する実証研究が行われるようになっていくが、その多くはキリスト教の分析に限られているため(Terazawa and Ng 2015)、本報告はそうした空白も埋めることになるだろう。

- 2) 社会経済指標は職種をスコア化したものであるが、職種の他にも自営/非自営、国営企業/民営企業といった就労地位やセクターも重要である。しかし近年では、就労地位やセクターよりも細かな職種の違いの方が台湾の社会階層を見る上で重要であることが指摘されているため(有田 2008)、本稿でも職種を用いることにした。また職種を変数として用いる際には、スコアではなくカテゴリー(専門職、事務職など)として用いることも可能だが、本稿の結果をもとに、より複雑な因果関係を想定した分析(パス解析など)を行う予定であるため、スコアを用いることにした。
- 3) 社会経済指標の他の職業スコアに職業威信スコアがある。黄(2008)には職業威信スコアとして「改良版台湾地区新職業威信スコア」(改良版台湾地區新職業聲望量表)(黄 2008)も提示されている。本稿で社会経済指標を用いたのは以下の理由による。第1に本稿では、職業階層に対して特定の理論的意味合いを持たせていたのではなく、あくまで他の客観的属性を統制した上での職業階層の効果を探索的に検討することを目的としていたからである。社会経済指標と職業威信スコアを用いる際の判断基準について黄(2008)では以下のような説明がなされてい

る。「理論に基づいて、測定したいものが職業に内在する道徳的イメージ「主観性一般地位」であれば、職業威信スコアを用いるとよい。測定したいものに職業に内在する道徳的イメージが含まれておらず、「客観階層」を測定したいのであれば、社会経済指標を用いるのがよい。「主観性一般地位」を測定するのか「客観階層」を測定するのかを理論的に決定することができず、あくまで職業と本人の教育年数、職業収入、階級アイデンティティ、子どもの学業成績などのその他の階層変数との関係を示したいのであれば、社会経済指標を用いるとよい」(黄 2008: 154)。第2に職業威信スコアを用いた分析も行ったところ、関連パターンは本稿の分析結果とほぼ同じものの、相関係数、標準化偏回帰係数、決定係数は全体的にやや小さく算出された。そのため職業スコアよりも社会経済指標の方がより説明力が高いと判断し、後者を用いることにした。

- 4) 台湾の各種職業スコアについては黄 (1998a、2003、2008) や Tsai and Chiu (1991) を参照のこと。
- 5) 回答者の最終学歴に対して以下の教育年数を割り当てた。無/不識字=0、自修/識字/私塾=0、小学=6、国(初)中=9、初職=9、高中普通科=12、高中職業科=12、高職=12、士官学校=14、五專=14、二專=14、三專=15、軍警校専修班=14、軍警校専科班=14、空中行専/商専=14、空中大学=16、軍警官校/大学=16、技術学院/科大=16、大学=16、碩士=18、博士=21。その他および無回答は欠損値処理をした。
- 6) 選択肢に対して以下の数値(各階級の中央値)を割り当てた。世帯月収の選択肢に対して以下の数値(各階級の中央値)を割り当てた。無収入=0、1 萬元以下=10000、1~2 萬元以下=15000、2~3 萬元以下=25000、3~4 萬元以下=35000、4~5 萬元以下=45000、5~6 萬元以下=55000、6~7 萬元以下=65000、7~8 萬元以下=75000、8~9 萬元以下=85000、9~10 萬元以下=95000、10~11 萬元以下=105000、11~12 萬元以下=115000、12~13 萬元以下=125000、13~14 萬元以下=135000、14~15 萬元以下=145000、15~16 萬元以下=155000、16~17 萬元以下=165000、17~18 萬元以上=175000、18~19 萬元以下=185000、19~20 萬元以下=195000、20~30 萬元以下=250000、30~40 萬元以下=350000、40~50 萬元以下=450000、50~100 萬元以下=750000、100 萬元以上=1000000。無回答は欠損値処理をした。

参考文献

【日本語：五十音順】

- 有田伸(2008)「東アジア社会における職業と社会階層——日本・韓国・台湾の階層構造の同質性と異質性——」『2005 年 SSM 調査シリーズ 13 東アジアの階層ダイナミクス』2005 年 SSM 調査研究会, 1-24.
- 五十嵐真子(2006)『現代台湾宗教の諸相——台湾漢族に関する文化人類学的研究——』人文書院。
- 吉川徹 (1998)『階層・教育と社会意識の形成——社会意識論の磁界』ミネルヴァ書房。
- (2008)『階級・階層意識の計量社会学』藤亮編『2005 年 SSM 調査シリーズ 8 階層意識の現在』2005 年 SSM 調査研究会, 175-195。
- (2011)『階層意識の現在とゆくえ』三隅一人・斎藤友里子編『現代日本の階層社会 3 流動化の中の階層意識』東京大学出版会, 63-77。
- (2014)『現代日本の「社会の心」——計量社会意識論——』有斐閣。
- 吉川徹編 (2007)『階層化する社会意識——職業とパーソナリティの計量社会学』勁草書房。
- 日本版総合的社会調査研究拠点編 (2010)『East Asian Social Survey EASS 2008 Culture Module Codebook』大阪商業大学 JGSS 研究センター。(http://jgss.daishodai.ac.jp/research/codebook/EASS2008CultureModuleCodebook.pdf, 2015 年 6 月 4 日取得)
- 寺沢重法 (2015a)「東アジアにおける大規模宗教調査データの蓄積——「台湾社会変遷基本調査」を事例として——」『宗教と社会』21: 65-72。
- (2015b)「現代台湾において日本統治時代を肯定的に評価しているのは誰か?——「台湾社会変遷基本調査」の探索的分析——」『日本台湾学会報』17: 頁未定。
- (2015c)「慈濟会所属者の族群と社会階層は多様化しているのか?——TSCS-1999/2004/2009 の分析——」『宗教と社会貢献』5(2): 頁未定。
- 成田静香(2010)「戦後台湾仏教における先駆的女性」野村鮎子・成田静香編『台湾女性研究の挑戦』人文書院, 234-248。
- 沼崎一郎 (2014)「台湾社会の形成と変容——二元・二層構造から多元・多層構造へ——」東北大学出版会。
- 李玉珍(2010)「出家による社会進出——戦後台湾における女性僧侶の生き方」野村鮎子・成田静香編『台湾女性研究の挑戦』人文書院, 213-233。
- 【中国語：ピンイン順】
- 陳淑絹・陳淑絹・陳杏枝 (2013)「台灣民眾的靈修行為與經驗」瞿海源編『宗教、術數與社會變遷(三)』台北, 巨流圖書公司: 251-281。
- 陳杏枝(2005)「都市化、省籍和代間信仰流動之研究」『臺灣社會學刊』35: 181-222。

- (2008)「外省人宗教信仰變遷初探——1984年至2004年台灣地區社會變遷基本調查資料分析——」《東吳社會學》23:107-138。
- 陳家倫(2008)「祖先崇拜」(<http://www.ios.sinica.edu.tw/TSCpedia/index.php/%E7%A5%96%E5%85%88%E5%B4%87%E6%8B%9C>, 2015年6月4日取得)。
- 傅仰止・杜素豪編(2010)「台灣社會變遷基本調查計畫第五期第五次調查計畫執行報告」台北,中央研究院社會學研究所。(<http://www.ios.sinica.edu.tw/sc/cht/datafile/tscs09.pdf>, 2015年6月4日取得)
- 郭文般(2012)「宗教的持續與變遷」朱瑞玲・瞿海源・張立雲編《灣的社會變遷1985~2005:心理,價值與宗教,台灣社會變遷基本調查系列三之2》台北,中央研究院社會學研究所:191-240。
- (2013)「台灣宗教變遷的社會階級分析」瞿海源編《宗教,術數與社會變遷(三)》台北,巨流圖書公司:99-123。
- 郭錦添(2001)「宗教活動的經濟分析——台灣的實證——」《經濟論文叢刊》29(1):1-19。
- 李丁・盧雲峰(2010)「華人社會中的宗教信仰與公共參與——以台灣地區為例——」《學海》3:57-69。
- 黃毅志(1998a)「台灣地區新職業分類的建構與評估」《調查研究》5:5-32。
- (1998b)「社會階層,社會網絡與心理幸福」《台灣社會學刊》21:171-210。
- (1999)「社會階層,社會網絡與主觀意識——台灣地區不公平的社會階層體系之延續——」台北:巨流圖書公司。
- (2003)「台灣地區新職業聲望與社經地位量表」之建構與評估——社會科學與教育社會學研究本土化——」《師大教育研究集刊》49(4):1-31。
- (2008)「如何精確測量職業地位?——改良版台灣地區新職業聲望與社經地位量表」之建構——」《台東大學教育學報》19(1):51-160。
- 林本炫(2007a)「台灣民眾信仰類別的變遷」(<http://www.ios.sinica.edu.tw/TSCpedia/index.php/%E5%8F%B0%E7%81%A3%E6%B0%91%E7%9C%BE%E4%BF%A1%E4%BB%B0%E9%A1%E5%88%A5%E7%9A%84%E8%AE%8A%E9%81%B7>, 2015年6月4日取得)。
- (2007b)「去寺廟教堂神壇的頻率」(<http://www.ios.sinica.edu.tw/TSCpedia/index.php/%E5%8E%BB%E5%AF%BA%E5%BB%9F%E6%95%99%E5%A0%82%E7%A5%9E%E5%A3%87%E7%9A%84%E9%A0%BB%E7%8E%87>, 2015年6月4日取得)。
- (2007c)「參與宗教團體的情形」(<http://www.ios.sinica.edu.tw/TSCpedia/index.php/%E5%8F%83%E8%88%87%E5%AE%97%E6%95%99%E5%9C%98%E9%AB%94%E7%9A%84%E6%83%85%E5%BD%A2>, 2015年6月4日取得)。
- 朱文妮(2002)「藝文活動參與行為之階層分析」《東吳社會學》12:137-179。
- 瞿海源(1997)「社會階層,文化認同與音樂喜好」張立雲・呂玉瑕・王甫昌編《九〇年代的台灣社會——社會變遷基本調查研究系列二(上)——》台北,中央研究院社會學研究所:191-228。
- (2006)「宗教,術數與社會變遷(一)——台灣宗教研究,術數行為研究,新興宗教研究——」台北,桂冠圖書公司。
- (2012)「宗教與術數態度和行為的變遷(1985-2005)——檢驗世俗化的影響——」朱瑞玲・瞿海源・張立雲編《灣的社會變遷1985~2005:心理,價值與宗教,台灣社會變遷基本調查系列三之2》台北,中央研究院社會學研究所:241-291。
- 章英華(1997)「都市化,階層化與生活型態」張立雲・呂玉瑕・王甫昌編《九〇年代的台灣社會——社會變遷基本調查研究系列二(上)——》台北,中央研究院社會學研究所:229-263。
- 章英華・伊慶春(2004)「從社會距離看台灣的族群關係」《香港社會學學報》5:119-137。
- 【英語:アルファベット順】
- Cantril, Hadley. (1943) "Educational and Economic Composition of Religious Groups," *American Journal of Sociology* 47(December): 505-518.
- Chang, Mau-Kuei (2014) "The Content and Discontent of Integration with China: The Dynamics of Political Attitudes in Taiwan," Joint Workshop on Contemporary Social and Cultural Change in Taiwan and Japan in 2014 at Hokkaido University, by Graduate School of Letters, Hokkaido University and IOS, Academia Sinica: 46-64.
- Chang, Wen-Cun (2005) "Religious Giving, Non-religious Giving, and After-life Consumption: Empirical Evidence from Taiwan," *Journal of Economic Analysis & Policy* 5(1): 1-31.
- Chang, Wen-Cun (2006) "Determinants of Religious Giving in an Eastern-Culture Economy: Empirical Evidence from Taiwan," *Review of Religious Research* 47(4): 363-379.
- Chou, Tungshan and Hiewu Su (2011) "When Financial Information meets Religiosity in Philanthropic Giving: The Case of Taiwan," *World Review of Business Research* 1(1): 150-165.
- Coreno, Thaddeus. (2002) "Fundamentalism as a

- Class Culture," *Sociology of Religion* 63: 335-360.
- Darnell, Alfred and Darren E. Sherkat (1997) "The Impact of Protestant Fundamentalism on Educational Attainment," *American Sociological Review* 62: 306-316.
- Davidson, James. D. (1977) "Socio-Economic Status and Ten Dimensions of Commitment," *Sociology and Social Research* 61: 462-485.
- Davidson, James D. and Ralph. E. Pyle (2011) *Ranking Faiths: Religious Stratification in America*, Rowman & Littlefield Pub Inc.
- Demerath, N. J. III (1965) *Social Class in American Protestantism*. Chicago: Rand McNally.
- Fukuyama, Yoshio. (1961) "The Major Dimensions of Church Membership," *Review of Religious Research* 2: 154-161.
- Glass, Jennifer and Jerry Jacobs (2005) "Childhood Religious Conservatism and Adult Attainment among Black and White Women," *Social Forces* 84: 555-579.
- Keister, Lisa. A. (2011) *Faith and Money: How Religious Belief Contributes to Wealth and Poverty*. Cambridge University Press.
- Keister, Lisa. A. ed. (2012) *Religion, Work, and Money*. Research in the Sociology of Work.
- Keister Lisa A. and Darren E. Sherkat eds. (2014) *Religion and Inequality in America: Research and Theory on Religion's Role in Stratification*. New York: Cambridge University Press.
- Kim. Andrew Eungi (2002) "Characteristics of Religious Life in South Korea: A Sociological Survey," *Review of Religious Research* 43(4): 291-310.
- Kohn, Melvin L. (1969) *Class and Conformity: A Study in Values*. University of Chicago Press.
- (1981) "Personality, Occupation, and Social Stratification: A Frame of Reference," *Research in Social Stratification and Mobility* 1: 267-297.
- Kohn, Melvin L. and C. Schooler (with the collaboration of J. Miller, C. Miller, C. Schoenbach and R. Shoenberg) (1983) *Work and Personality*. Ablex.
- Kohn, Melvin L., Weidong Wang and Yin Yue (2012) "Social Structure and Personality during the Transformation of Urban China: A Comparison to Transitional Poland and Ukraine," *Social Forces* 91(2): 347-374.
- Lazerwitz, Bernard. (1961) "A Comparison of Major United States Religious Groups," *Journal of the American Statistical Association* 56(September): 568-579.
- Lehrer, Evelyn (1995) "The Effects of Religion on the Labor Supply of Married Women," *Social Science Research* 24: 281-301.
- Liu, Eric Y. (2010) "Are Risk-Taking Persons Less Religious? Risk Preference, Religious Affiliation, and Religious Participation in Taiwan," *Journal for the Scientific Study of Religion* 49(1): 172-178.
- Madsen, Richard (2007) *Democracy's Dharma: Religious Renaissance and Political Development in Taiwan*, Los Angeles, University of California Press.
- Morgan S. L. (2001) "Counterfactuals, Causal Effect Heterogeneity, and the Catholic School Effect on Learning," *Sociology of Education* 74(4): 341-374.
- Pyle, Ralph E. (2006) "Trends in Religious Stratification: Have Religious Group Socioeconomic Distinctions Declined in Recent Decades?," *Sociology of Religion* 67(1): 61-79.
- Roemer, Michael. K. (2009) "Religious Affiliation in Contemporary Japan: Untangling the Enigma," *Review of Religious Research* 50(3): 298-320.
- Schieman, Scott (2010) "Socioeconomic Status and Beliefs about God's Influence in Everyday Life," *Sociology of Religion* 71(1): 25-51.
- Sherkat, Darren E. (1998) "Counterculture or Continuity? Examining Competing Influences on Baby Boomers' Religious Orientations and Participation," *Social Forces*. 76(3): 1087-1114.
- Sherkat, Darren. E. and Alfred. Darnell (1999) "The Effect of Parents' Fundamentalism on Children's Educational Attainment: Examining Differences by Gender and Children's Fundamentalism," *Journal for the Scientific Study of Religion* 38: 23-35.
- Sikkink, David. (1999) "The Social Sourced of Alienation from Public Schools," *Social Forces* 78(1): 51-86.
- Smith, Christian. and Robert. Faris (2005) "Socioeconomic Inequality in the American Religious System: An Update and Assessment," *Journal for the Scientific Study of Religion* 44(1): 95-104.
- Ruiter, Stijn and Frank. van Tubergen (2009) "Religious Attendance in Cross-National Perspective: A Multilevel Analysis of 60 Countries" *American Journal of Sociology* 115(3): 863-95.
- Terazawa, Shigenori and Ka-Shing Ng (2015) "Religious Affiliation and Social Stratifica-

tion in Taiwan (2000-2010): Analysis of Taiwanese Social Change Survey," *Journal of the Graduate School of Letters* 10: 59-70.
Tsal, Shu-ling and Chiu Hsi-yuan (1991) "Constructing Occupational Scales for Taiwan," *Research in Social Stratification and Mobility*

10: 229-253.
Yang, F. enggang (2012) "Mapping Chinese Folk Religion in Mainland China and Taiwan," *Journal for the Scientific Study of Religion* 51(3): 505-521.

附録 重回帰分析の結果

M：男性有職者 F：女性有職者 ※：ISSPの設問 r：相関係数 β：標準化偏回帰係数 R²=決定係数 ***p<.001 **p<.01 *p<.05

問28(1) 神鬼・霊魂観念(最高神)			問28(2) 神鬼・霊魂観念(靈魂)			問28(3) 神鬼・霊魂観念(亡者)			問28(4) 神鬼・霊魂観念(憑依)		
M	r	β	M	r	β	M	r	β	M	r	β
実年齢	.058	.053	実年齢	-.100 *	-.083	実年齢	-.044	-.089	実年齢	-.023	-.045
族群	-.011	-.015	族群	.059	.051	族群	.101 *	.087 *	族群	.091 *	.076
教育年数	-.059	.004	教育年数	.020	.060	教育年数	-.104 *	-.025	教育年数	-.092 *	-.031
職業	-.083	-.050	職業	-.061	-.069	職業	-.183 ***	-.175 **	職業	-.124 **	-.076
世帯月収	-.049	-.028	世帯月収	-.084	-.079	世帯月収	-.075	.015	世帯月収	-.118 **	-.088
R ²		.008	R ²		.023	R ²		.045 ***	R ²		.028
N		551	N		551	N		548	N		553

問28(5) 縁起観念(出会い)			問28(6) 縁起観念(結婚相手)			問28(7) 縁起観念(労働)			問28(8) 気功観念(病氣)		
M	r	β	M	r	β	M	r	β	M	r	β
実年齢	.079 *	.071	実年齢	.176 ***	.121 **	実年齢	.158 ***	.037	実年齢	.001	.109 *
族群	.060	.057	族群	.156 ***	.141 **	族群	.077	.053	族群	.007	.033
教育年数	-.101 *	.003	教育年数	-.271 ***	-.097	教育年数	-.322 ***	-.259 ***	教育年数	.190 ***	.243 ***
職業	-.120 **	-.117 *	職業	-.258 ***	-.189 ***	職業	-.247 ***	-.113 *	職業	.140 **	.019
世帯月収	-.046	.013	世帯月収	-.119 *	.023	世帯月収	-.092 *	.088	世帯月収	.082	-.033
R ²		.022 *	R ²		.116 ***	R ²		.115 ***	R ²		.047 ***
N		553	N		548	N		553	N		547

問28(9) 気功観念(錦標)			問28(10) 気功観念(息災)			問28(11) 気功観念(除障)			問28(12) 気功観念(磁場)		
M	r	β	M	r	β	M	r	β	M	r	β
実年齢	.048	.107 *	実年齢	-.155 ***	-.177 ***	実年齢	.103 *	.220 ***	実年齢	.138 **	.179 ***
族群	-.010	.003	族群	-.109 *	-.120 **	族群	-.024	.004	族群	.068	.074
教育年数	.065	.143 *	教育年数	.074	-.053	教育年数	.133 **	.274 ***	教育年数	-.047	.109
職業	.035	-.027	職業	.063	.092	職業	.071	-.075	職業	-.084	-.099
世帯月収	.007	-.031	世帯月収	-.005	-.046	世帯月収	.069	.006	世帯月収	-.044	-.027
R ²		.013	R ²		.043 ***	R ²		.054 ***	R ²		.032 **
N		552	N		554	N		551	N		535

問28(13) 超心理学			問29(1) 神必要			問29(2) 祖先崇拝観念			問29(3) 因果観念(子孫)		
M	r	β	M	r	β	M	r	β	M	r	β
実年齢	-.093 *	-.050	実年齢	-.020	-.056	実年齢	.014	-.078	実年齢	.140 ***	.116 *
族群	.051	.049	族群	-.022	-.030	族群	.142 ***	.122 **	族群	.025	.024
教育年数	.058	.121	教育年数	-.051	-.074	教育年数	-.231 ***	-.182 **	教育年数	-.137 **	-.038
職業	-.040	-.074	職業	-.050	-.020	職業	-.249 ***	-.177 **	職業	-.115 **	-.092
世帯月収	-.079	-.093	世帯月収	-.015	.016	世帯月収	-.071	.085	世帯月収	-.034	.031
R ²		.025 *	R ²		.006	R ²		.096 ***	R ²		.032 **
N		536	N		557	N		558	N		558

問29(4) 因果観念(本人)			問32(a) 死後の世界を信じる ※			問32(b) 天国を信じる ※			問32(c) 地獄を信じる ※		
M	r	β	M	r	β	M	r	β	M	r	β
実年齢	.136 **	.120 *	実年齢	-.139 **	-.101 *	実年齢	.004	-.032	実年齢	.017	-.026
族群	.143 ***	.139 **	族群	.080	.071	族群	.025	.007	族群	.014	-.004
教育年数	-.164 ***	-.013	教育年数	.054	.111	教育年数	-.102 *	-.083	教育年数	-.121 **	-.079
職業	-.167 ***	-.146 **	職業	-.063	-.098	職業	-.113 **	-.062	職業	-.128 **	-.070
世帯月収	-.077	.013	世帯月収	-.082	-.083	世帯月収	-.088 *	-.038	世帯月収	-.088 *	-.029
R ²		.062 ***	R ²		.039 ***	R ²		.017	R ²		.021
N		556	N		532	N		529	N		532

問32(d) 宗教的奇跡を信じる ※			問32(e) 輪廻転生を信じる ※			問32(f) 涅槃を信じる ※			問32(g) 祖先の霊的力を信じる※		
M	r	β	M	r	β	M	r	β	M	r	β
実年齢	.041	-.004	実年齢	.008	-.044	実年齢	-.009	-.043	実年齢	.053	-.037
族群	.125 **	.104 *	族群	.176 ***	.157 ***	族群	.176 ***	.159 ***	族群	.061	.041
教育年数	-.156 ***	-.092	教育年数	-.175 ***	-.118	教育年数	-.116 **	-.088	教育年数	-.224 ***	-.192 **
職業	-.135 **	-.042	職業	-.174 ***	-.091	職業	-.100 *	-.021	職業	-.199 ***	-.101
世帯月収	-.140 **	-.073	世帯月収	-.118 **	-.018	世帯月収	-.102 *	-.041	世帯月収	-.079	.042
R ²		.043 ***	R ²		.066 ***	R ²		.045 ***	R ²		.061 ***
N		534	N		533	N		513	N		532

問33(a) 至高神の存在 ※			問33(c) 至高神の意義 ※			問33(f) スピリチュアリティ(宗教不変) ※			問35 宗教施設参加頻度 ※		
M	r	β	M	r	β	M	r	β	M	r	β
実年齢	.067	.055	実年齢	.141 ***	.146 **	実年齢	.026	.081	実年齢	.132 **	.078
族群	.030	.027	族群	.017	.014	族群	.102 *	.114 **	族群	.115 **	.100 *
教育年数	-.084 *	-.014	教育年数	-.092 *	.031	教育年数	.057	.118	教育年数	-.169 ***	-.122 *
職業	-.091 *	-.083	職業	-.071	-.039	職業	.034	-.022	職業	-.069	.051
世帯月収	-.031	.016	世帯月収	-.104 *	-.090	世帯月収	.019	.000	世帯月収	-.122 **	-.079
R ²		.013	R ²		.030	R ²		.020	R ²		.049 ***
N		548	N		550	N		533	N		558

M：男性有職者 F：女性有職者 ※：ISSPの設問 r：相関係数 β ：標準化偏回帰係数 R²=決定係数 ***p<.001 **p<.01 *p<.05

問37 祈り頻度 ※			問38 宗教活動参加頻度 ※			問40 宗教目的参加頻度 ※			問41 信仰度 ※		
M	r	β	M	r	β	M	r	β	M	r	β
実年齢	.093 *	.098 *	実年齢	.056	.026	実年齢	.030	.073	実年齢	.141 ***	.141 **
族群	.007	.005	族群	.021	.014	族群	-.108 *	-.098 *	族群	.025	.024
教育年数	-.041	.012	教育年数	-.085	-.076	教育年数	.093 *	.089	教育年数	-.099 *	.014
職業	.007	.049	職業	-.002	.059	職業	.103 *	.082	職業	-.074	-.049
世帯月収	-.073	-.092	世帯月収	-.037	-.029	世帯月収	.044	-.024	世帯月収	-.070	-.042
R ²		.016	R ²		.008	R ²		.026 *	R ²		.026 *
N		558	N		558	N		558	N		553

問44(a) 宗教の効用(安らぎ) ※			問44(b) 宗教の効用(友人) ※			問44(c) 宗教の効用(理し) ※			問44(d) 宗教の効用(良識) ※		
M	r	β	M	r	β	M	r	β	M	r	β
実年齢	.043	.116 *	実年齢	.009	.080	実年齢	.087 *	.149 **	実年齢	.117 **	.154 **
族群	-.031	-.006	族群	-.074	-.056	族群	.014	.041	族群	-.057	-.040
教育年数	.142 ***	.143 *	教育年数	.133 **	.154 *	教育年数	.125 **	.095	教育年数	-.003	.095
職業	.148 ***	.053	職業	.103 *	.016	職業	.197 ***	.134 **	職業	-.029	-.108
世帯月収	.122 **	.049	世帯月収	.068	-.001	世帯月収	.135 **	.053	世帯月収	.071	.085
R ²		.039 ***	R ²		.027 *	R ²		.059 ***	R ²		.029 *
N		553	N		554	N		555	N		549

問45(a) 政教分離(選挙) ※			問45(b) 政教分離(政府) ※			問46(b) 宗教と科学 ※			問46(c) 宗教と争い ※		
M	r	β	M	r	β	M	r	β	M	r	β
実年齢	-.056	-.038	実年齢	-.038	-.046	実年齢	.087 *	.124 *	実年齢	-.028	-.015
族群	.023	.027	族群	.007	.007	族群	.036	.053	族群	.000	.007
教育年数	.073	.030	教育年数	.016	-.024	教育年数	.006	.081	教育年数	.025	.031
職業	.067	.044	職業	.017	.015	職業	-.005	-.073	職業	-.023	-.078
世帯月収	.037	.006	世帯月収	.029	.030	世帯月収	.067	.079	世帯月収	.067	.087
R ²		.008	R ²		.003	R ²		.019	R ²		.009
N		554	N		553	N		550	N		537

問46(d) 宗教と不寛容 ※			問47 宗教団体の影響力 ※			問48(a) 宗教団体への等しい権利 ※			問48(b) 宗教団体への等しい尊重 ※		
M	r	β	M	r	β	M	r	β	M	r	β
実年齢	.024	.012	実年齢	.005	.038	実年齢	.061	.135 **	実年齢	.084 *	.125 *
族群	-.067	-.061	族群	.038	.050	族群	.000	.018	族群	.015	.031
教育年数	.018	-.046	教育年数	.034	.076	教育年数	.068	.179 **	教育年数	.041	.079
職業	.060	.054	職業	-.017	-.092	職業	.014	-.081	職業	.063	.016
世帯月収	.086 *	.076	世帯月収	.070	.085	世帯月収	.031	.005	世帯月収	.058	.030
R ²		.013	R ²		.012	R ²		.020	R ²		.017
N		547	N		529	N		551	N		556

問49(a) 宗教的寛容(結婚) ※			問49(b) 宗教的寛容(投票) ※			問50(a) 宗教的寛容(集会) ※			問50(b) 宗教的寛容(出版) ※		
M	r	β	M	r	β	M	r	β	M	r	β
実年齢	-.066	-.095	実年齢	-.038	-.040	実年齢	-.120 **	-.071	実年齢	-.135 **	-.098 *
族群	-.015	-.017	族群	-.018	-.014	族群	.021	.027	族群	.019	.022
教育年数	.009	-.080	教育年数	.056	-.022	教育年数	.113 **	.120	教育年数	.121 **	.083
職業	.020	.032	職業	.078	.070	職業	.026	-.035	職業	.062	.024
世帯月収	.054	.066	世帯月収	.066	.041	世帯月収	-.003	-.037	世帯月収	.000	-.046
R ²		.010	R ²		.009	R ²		.022 *	R ²		.025 *
N		548	N		543	N		545	N		544

問59(1) スピリチュアリティ(霊的成長) ※			問59(2) スピリチュアリティ(神仏に近づく) ※			問59(3) スピリチュアリティ(神通力) ※			問64 宗教団体への寄付額		
M	r	β	M	r	β	M	r	β	M	r	β
実年齢	.008	.098	実年齢	.053	.121 *	実年齢	.050	.099	実年齢	.100 **	.149 **
族群	-.005	.013	族群	.078	.094 *	族群	.061	.068	族群	-.025	.017
教育年数	.142 **	.222 ***	教育年数	.079	.150 *	教育年数	.020	.131	教育年数	.143 ***	.061
職業	.075	-.023	職業	.059	-.013	職業	-.023	-.070	職業	.192 ***	.084
世帯月収	.005	-.066	世帯月収	.029	-.007	世帯月収	-.038	-.046	世帯月収	.307 ***	.260 ***
R ²		.030 **	R ²		.025 *	R ²		.015	R ²		.121 ***
N		526	N		499	N		479	N		553

問77(c) 宗教団体への信頼 ※			問80(3) 因果経緯(天国/地獄)			問80(5) 因果経緯(来世での良い生活)		
M	r	β	M	r	β	M	r	β
実年齢	.039	.091	実年齢	.059	.076	実年齢	.152 ***	.094
族群	-.046	-.036	族群	.049	.053	族群	.034	.026
教育年数	.087 *	.124 *	教育年数	-.041	.053	教育年数	-.202 ***	-.111
職業	.086 *	.052	職業	-.075	-.103	職業	-.164 ***	-.104
世帯月収	-.010	-.081	世帯月収	-.020	.011	世帯月収	-.057	.040
R ²		.021 *	R ²		.012	R ²		.052 ***
N		540	N		550	N		554

M：男性有職者 F：女性有職者 ※：ISSP の設問 r：相関係数 β ：標準化偏回帰係数 R^2 ：決定係数 *** $p<.001$ ** $p<.01$ * $p<.05$

問28(1) 神鬼・靈魂観念(最高神)	問28(2) 神鬼・靈魂観念(靈魂)	問28(3) 神鬼・靈魂観念(亡者)	問28(4) 神鬼・靈魂観念(憑依)
F	F	F	F
r	r	r	r
β	β	β	β
実年齢 .121 *	実年齢 -.081	実年齢 .005	実年齢 .028
族群 -.084	族群 .022	族群 .080	族群 .036
教育年数 .009	教育年数 .094 *	教育年数 -.057	教育年数 -.070
職業 .078	職業 .074	職業 -.047	職業 -.072
世帯月収 -.036	世帯月収 .072	世帯月収 .002	世帯月収 .025
R^2 .036 **	R^2 .014	R^2 .010	R^2 .009
N 450	N 452	N 449	N 446

問28(5) 縁起観念(出合い)	問28(6) 縁起観念(結婚相手)	問28(7) 縁起観念(労働)	問28(8) 氣功観念(病氣)
F	F	F	F
r	r	r	r
β	β	β	β
実年齢 .057	実年齢 .224 ***	実年齢 .175 ***	実年齢 .150 **
族群 .083	族群 .061	族群 .061	族群 -.010
教育年数 -.089	教育年数 -.261 ***	教育年数 -.257 ***	教育年数 .077
職業 -.041	職業 -.202 ***	職業 -.230 ***	職業 .127 **
世帯月収 .057	世帯月収 .008	世帯月収 -.029	世帯月収 .116 *
R^2 .019	R^2 .089 ***	R^2 .081 ***	R^2 .064 ***
N 447	N 448	N 451	N 447

問28(9) 氣功観念(儲積)	問28(10) 氣功観念(息災)	問28(11) 氣功観念(陰陽)	問28(12) 氣功観念(磁場)
F	F	F	F
r	r	r	r
β	β	β	β
実年齢 .178 ***	実年齢 -.251 ***	実年齢 .115 *	実年齢 .126 **
族群 -.020	族群 -.009	族群 -.006	族群 -.034
教育年数 .026	教育年数 .170 ***	教育年数 .032	教育年数 .077
職業 .136 **	職業 .073	職業 .111 **	職業 .137 **
世帯月収 .113 *	世帯月収 -.011	世帯月収 .052	世帯月収 .011
R^2 .088 ***	R^2 .066 ***	R^2 .033 *	R^2 .050 ***
N 447	N 448	N 447	N 443

問28(13) 超心理学	問29(1) 神必要	問29(2) 祖先崇拜観念	問29(3) 因果観念(子孫)
F	F	F	F
r	r	r	r
β	β	β	β
実年齢 -.107 *	実年齢 -.109 *	実年齢 .045	実年齢 .148 **
族群 .026	族群 .030	族群 .075	族群 .135 **
教育年数 .176 ***	教育年数 -.019	教育年数 -.228 ***	教育年数 -.179 ***
職業 .184 ***	職業 -.036	職業 -.250 ***	職業 -.141 **
世帯月収 -.018	世帯月収 .016	世帯月収 .010	世帯月収 .000
R^2 .046 **	R^2 .022	R^2 .085 ***	R^2 .057 ***
N 436	N 454	N 451	N 454

問29(4) 因果観念(本人)	問32(a) 死後の世界を信じる ※	問32(b) 天国を信じる ※	問32(c) 地獄を信じる ※
F	F	F	F
r	r	r	r
β	β	β	β
実年齢 .112 *	実年齢 -.038	実年齢 -.020	実年齢 -.018
族群 .092	族群 .037	族群 -.069	族群 -.031
教育年数 -.149 **	教育年数 .071	教育年数 -.008	教育年数 -.022
職業 -.135 **	職業 .060	職業 .037	職業 .007
世帯月収 .052	世帯月収 .043	世帯月収 -.052	世帯月収 -.024
R^2 .042 **	R^2 .008	R^2 .012	R^2 .004
N 449	N 437	N 430	N 433

問32(d) 宗教的奇跡を信じる ※	問32(e) 輪廻転生を信じる ※	問32(f) 涅槃を信じる ※	問32(g) 祖先の霊的力を信じる ※
F	F	F	F
r	r	r	r
β	β	β	β
実年齢 .037	実年齢 .077	実年齢 .071	実年齢 .024
族群 -.006	族群 .061	族群 .048	族群 .051
教育年数 .005	教育年数 -.082	教育年数 -.052	教育年数 -.069
職業 .045	職業 -.064	職業 -.054	職業 -.083
世帯月収 -.059	世帯月収 .020	世帯月収 -.023	世帯月収 .004
R^2 .010	R^2 .013	R^2 .009	R^2 .010
N 433	N 433	N 417	N 429

問33(a) 至高神の存在 ※	問33(c) 至高神の意義 ※	問33(f) スピリチュアリティ(宗教不要) ※	問35 宗教施設参加頻度 ※
F	F	F	F
r	r	r	r
β	β	β	β
実年齢 .067	実年齢 .231 ***	実年齢 -.113 *	実年齢 .131 **
族群 -.105 *	族群 -.096 *	族群 .009	族群 .055
教育年数 -.021	教育年数 -.166 ***	教育年数 .226 ***	教育年数 -.123 **
職業 .029	職業 -.042	職業 .219 ***	職業 -.073
世帯月収 -.021	世帯月収 -.057	世帯月収 .054	世帯月収 -.131
R^2 .018	R^2 .069 ***	R^2 .062 ***	R^2 .040 **
N 445	N 447	N 430	N 454

M：男性有職者 F：女性有職者 ※：ISSP の設問 r：相関係数 β ：標準化偏回帰係数 R²=決定係数 ***p<.001 **p<.01 *p<.05

問37	折り頻度	※	問38	宗教活動参加頻度	※	問40	宗教目的参加頻度	※	問41	信仰度	※
F	r	β	F	r	β	F	r	β	F	r	β
実年齢	.187 ***	.162 **	実年齢	.158 ***	.187 **	実年齢	.113 *	.162 **	実年齢	.146 **	.145 *
族群	-.131 **	-.126 **	族群	-.015	.000	族群	-.020	-.011	族群	-.058	-.048
教育年数	-.087	.008	教育年数	-.029	.006	教育年数	.013	.089	教育年数	-.075	-.005
職業	-.048	-.023	職業	.066	.117	職業	.037	.011	職業	-.021	.020
世帯月収	-.005	.007	世帯月収	-.033	-.063	世帯月収	.033	.013	世帯月収	-.029	-.030
R ²		.044 **	R ²		.039 **	R ²		.021	R ²		.025 *
N		454	N		454	N		454	N		450

問44(a)	宗教の効用(安らぎ)	※	問44(b)	宗教の効用(友人)	※	問44(c)	宗教の効用(癒し)	※	問44(d)	宗教の効用(良識人)	※
F	r	β	F	r	β	F	r	β	F	r	β
実年齢	.109 *	.211 ***	実年齢	.027	.119 *	実年齢	.082	.141 *	実年齢	.121 **	.098
族群	-.080	-.068	族群	-.090	-.080	族群	-.076	-.089	族群	-.117 **	-.112 *
教育年数	.114 *	.185 **	教育年数	.140 **	.164 *	教育年数	.082	.080	教育年数	-.063	-.070
職業	.130 **	.040	職業	.137 **	.048	職業	.136 **	.099	職業	.022	.085
世帯月収	.100 *	.058	世帯月収	.062	.024	世帯月収	.088	.053	世帯月収	-.005	-.005
R ²		.080 ***	R ²		.042 **	R ²		.042 **	R ²		.031 *
N		452	N		451	N		452	N		449

問45(a)	政教分離(選挙)	※	問45(b)	政教分離(政府)	※	問46(b)	宗教と科学	※	問46(c)	宗教と争い	※
M	r	β	F	r	β	F	r	β	F	r	β
実年齢	-.088	.028	実年齢	-.026	.036	実年齢	.106 *	.082	実年齢	.000	.012
族群	.037	.054	族群	.032	.042	族群	-.073	-.086	族群	.020	.025
教育年数	.172 ***	.122	教育年数	.089	.100	教育年数	-.095 *	-.036	教育年数	.018	.000
職業	.183 ***	.141 *	職業	.073	.034	職業	-.057	.010	職業	.040	.055
世帯月収	-.062	-.122 *	世帯月収	-.038	-.068	世帯月収	-.099 *	-.083	世帯月収	-.040	-.055
R ²		.054 ***	R ²		.014	R ²		.025	R ²		.005
N		451	N		452	N		441	N		444

問46(d)	宗教と不寛容	※	問47	宗教団体の影響力	※	問48(a)	宗教団体への等しい権利	※	問48(b)	宗教団体への等しい敬意	※
F	r	β	F	r	β	F	r	β	F	r	β
実年齢	-.026	-.009	実年齢	.033	.039	実年齢	-.020	-.016	実年齢	-.099 *	-.089
族群	-.022	-.016	族群	.042	.046	族群	-.052	-.049	族群	-.021	-.025
教育年数	.046	-.001	教育年数	.004	-.022	教育年数	.005	.017	教育年数	.122	.031
職業	.072	.084	職業	.054	.080	職業	-.014	-.015	職業	.117 **	.068
世帯月収	-.042	-.080	世帯月収	.001	-.017	世帯月収	-.087	-.083	世帯月収	.073	.052
R ²		.009	R ²		.008	R ²		.007	R ²		.023
N		442	N		426	N		447	N		451

問49(a)	宗教的寛容(結婚)	※	問49(b)	宗教的寛容(投票)	※	問50(a)	宗教的寛容(集会)	※	問50(b)	宗教的寛容(出版)	※
F	r	β	F	r	β	F	r	β	F	r	β
実年齢	-.046	-.031	実年齢	-.005	.009	実年齢	-.136 **	-.153 **	実年齢	-.143 **	-.161 **
族群	-.042	-.046	族群	-.026	-.030	族群	.099 *	.087	族群	.079	.063
教育年数	.079	.005	教育年数	.073	-.018	教育年数	.058	-.042	教育年数	.066	-.042
職業	.094 *	.087	職業	.132 **	.126 *	職業	.029	.013	職業	.038	.011
世帯月収	.079	.085	世帯月収	.108 *	.082	世帯月収	.083	.084	世帯月収	.105 *	.109 *
R ²		.015	R ²		.025	M		.031 *	R ²		.037 **
N		448	N		444	N		445	N		438

問59(1)	スピリチュアリティ(霊的成長)	※	問59(2)	スピリチュアリティ(神仏に近づく)	※	問59(3)	スピリチュアリティ(神通力)	※	問64	宗教団体への寄付額	※
F	r	β	F	r	β	F	r	β	F	r	β
実年齢	.044	.118 *	実年齢	-.075	-.022	実年齢	.045	.033	実年齢	.227 ***	.326 ***
族群	-.002	.022	族群	.088	.090	族群	.048	.043	族群	-.108 *	-.097 *
教育年数	.148 **	.081	教育年数	.120	.071	教育年数	-.041	.007	教育年数	.034	.172 *
職業	.249 ***	.234 ***	職業	.107 *	.049	職業	-.055	-.071	職業	.107 *	.047
世帯月収	.071	.003	世帯月収	.089	.056	世帯月収	.072	.083	世帯月収	.090	.054
R ²		.073 ***	R ²		.028 *	R ²		.013	R ²		.100 ***
N		426	N		420	N		389	N		446

問77(c)	宗教団体への信頼	※	問80(3)	因果慈善(天国/地獄)	※	問80(5)	因果慈善(来世での良い生活)	※
F	r	β	F	r	β	F	r	β
実年齢	.084	.109	実年齢	.047	.034	実年齢	.080	.055
族群	-.089	-.086	族群	-.109	-.112	族群	-.051	-.051
教育年数	.014	.067	教育年数	-.010	-.031	教育年数	-.045	.023
職業	.021	-.018	職業	.026	.038	職業	-.080	-.071
世帯月収	.083	.058	世帯月収	.050	.055	世帯月収	.012	.028
R ²		.021	R ²		.018	R ²		.009
N		437	N		450	N		451